

紅門寺 巧拿智空

武淨(智空) 小生(李祿) 正旦(劉氏) 老生(俞成龍)

直隸涿州紅門寺の住持智空といふは、漁色専門の惡僧で、一日李祿といふ者が劉氏をつれて通りかかつたのを捕へ、寺内に幽閉する。李劉兩家では事情を知らぬから互ひに相手を官に訴へる。總督俞成龍は微服して探訪に出掛けると、智空は彼を捕へて大鐵鐘の中に幽閉する。總督の部下が探しに来て、紅門寺に紅光天をこがすを見、失火と思つて駆けつけて鐘の下から總督を救ひ出し、智空を生擒し、李夫婦も助け出された。

千日醉

老殘遊記に出づ。此書は義和團事件の以前に出版されたもので、そのうちに北拳(拳匪)南革(革命黨)の豫言がしてあり、それが適中したといふので有名である。本劇はその中の一項「齊河縣案」を脚色したもの。山東齊河縣に賈といふ富家があつたが、中秋節に麵を喰つて一家全滅した。その數日前嫁の家から月餅を送つて來た事實があるので嫌疑がかかり、嫁の父魏謙が獄に下され、その間役人の殘酷貪慾、殆んど無實の罪に陥れられんとしたが、或る義俠な男の盡力で犯人が分る。犯人は賈の娘探春で、從兄の吳二浪子と私通してゐたのを嫂に見付けられ、一家を毒殺したのである。ところが賈が飲んだのは「千日醉」と云ふ毒草であつたので、巡撫の幕友鐵英が解藥を探し出し、ために一家は又蘇生した。

徐錫麟

徐錫麟は浙江の人で、章炳麟等の主唱した光復會の一員であつたが、革命を實行すべく大金を以て安徽巡警道の官を買

新茶花

ひ、徐ろに事を成すつもりであつたが、巡撫恩銘の黨人を索むること急なるに激發し、明治四十年、同志陳伯平馬宗漢と共に恩巡撫を暗殺した。支那革命史の花と謳はれた秋瑾女史は實に徐の從妹で、女黨員の嚆矢であるが、此事件に坐して斬られた。「秋風秋雨愁殺人」とは彼女が絶命の詩の一句である。革命成功するや、上海の各舞臺でよく上演されたものだ。

紅蝴蝶

日露戰爭の際、日本の一醜業婦が露將の妾となつて地圖を盗み出したといふ話を捉へ來り、之を支那流に翻案して支那人の愛國心を鼓舞しようといふ試みたもの。新劇發生の初期に當つて割るるが如き歡迎を受けたものである。北京の查百川といふ干總の娘に花花といふがあり、父に従つて哈爾濱に住み、競文學校といふ女學校を優等で出た程の女であるが、不幸父が歿し、續いて母が死に、叔父の葉厚庵といふのに驅されて藝妓屋に賣られ、茶花と呼ばれて全盛を極めてゐるうち、露西人との關係が出来るといふのである。

前清光緒末年、趙爾巽が東三省總督であつた時代に、長春府瓦子峪の地方に蓋天紅趙大剛といふ大盜があり、妻は胡氏で花鶯鶯といふ綽名がある。妹趙凌茹は當時十七歳、非常に美人で武藝に秀で紅蝴蝶といふあだながある。此姉妹の手下には尙草上飛、賽飛燕、快如風、閃電影と呼ぶ四人の俠女があり、趙大剛は彼女等を率ゐて一方に覇を稱してゐた。本劇はこの紅蝴蝶趙凌茹を女主人公とする大芝居で、たしか芙蓉草が上海にゐた頃(民國五六年)初めて上海の舞臺で演ぜられたと思ふ。女俠の芝居は支那では大持てに持てるもので、今では十集から成る紅蝴蝶傳が出版されてゐる。原本に就くより外はない。

前清の時、北京永定門外に王龍江と云ふ料理人がゐた。家貧の爲に前門外西月牆の馬思遠と云ふ菜館に奉公してゐた。年に幾日かの暇を貰つて家に歸り、妻を慰めると云ふやうな調子で暮してゐた。併し可なり別嬪だつた彼の妻賈玉兒はそれに満足しなかつた。別に情人を作つて自分の寂しさを慰めようと考へて、三官廟の祭日を選んで情人を釣りに行つた。そこで李三旺と云ふ者を家へ連れ込み、毎晩雲雨の樂に耽つてゐた。時に王龍江は歲暮の暇を偷み醉拂つて家へ歸つて來た。途中で甘子謙と呼ぶ知合ひに遇つて金を借られたが王は承諾しなかつた。そこで甘子謙は偷む氣が出て彼の跡を追うて、部屋の中にあるテーブルの下に匿れてゐた。王が家へ歸つた時に李三旺は閨房にゐた。然し王は醉拂つてゐるから知らずに床に入つた。賈氏は李三旺と計つて王を殺し屍骸を後園に埋めた。二人の爲した凡べての話や行爲等は誰も知らずに唯卓下に匿れてゐた甘子謙が知つてゐた。それから賈氏は近隣の耳目を掩ふべく馬思遠菜館へ亭主を索めに行つた。遂に訴訟事件になり一は馬思遠の謀殺を訴へ、一は賈氏の誣告を訴へた。そこで都察院は判決に苦しんだ。時偶々甘子謙は竊盜罪で究問されてゐるところであつた。そこで甘は此事に關する始末を白狀した。都察院は始めて頭緒を掴み此件を裁判し、賈氏及び李三旺の二人を死刑に處し、王の財産器具一切を甘に管理せしめた。甘は此件で放免になり尙ほ賞與として百兩の白銀を頂戴した。

春 阿 氏

前清の末、北京安定門内菊兒胡同の春英といふ滿人の家庭に起つた事件。春英はその妻阿氏と仲が悪かつたが、一夜何者にか暗殺され、而も其傍には阿氏の外誰もゐなかつたといふので、嫌疑は當年十九歳の美人阿氏に掛つた。併し如何に

取調べられても阿氏は實を吐かぬ。ただ黙つて殺して呉れといふばかり、事實阿氏の様子を見ても下手人とは受取れぬ。一方春家には、英の父の妾に暗娼出身の『蓋九城』とあだ名された阿婆すれ女がゐて、家庭も紊れてゐたので、その方にも嫌疑がかかる。獄裡の美人が萬斛の恨を懷いて芳魂地に歸するに及んでも眞相は判明しなかつたが、阿氏の死後七日目に、その墓にくびれて死んだ一人の男子に頭緒が得られ、『春阿氏』著者は逝ける美人のために雪辱した。その事實はかうである。阿氏の従兄弟に王吉なる慷慨青年がゐた。振分髪の前から兄と呼び妹と呼ばれて育つて來たのが、兩家の不和のために暫らく離れてゐるうちに、阿氏は春家に嫁入ることとなつた。心に染まぬ結婚たるはいふまでもなく、それが自ら舉動に現はれるかして英との間が面白くなく屢々虐待されるとの事を風の便りに聞いた王吉は、血氣盛んな二十一歳の憤激、最愛の従妹のために一夜春家に忍んで行つて英を斬殺した。阿氏はその時王吉を止めたが力及ばず、水甕に飛込んで死なうとしたが家人に助けられて果さなかつた。獄中に在つて一言も吐かず、従兄のために甘んじて死んだのは賞するに餘りあり、著者の筆は悲劇を叙するに適してゐて、時時ホロリとさせるが、就中王吉阿氏の幼時を述べて所謂『兩少無嫌猜』てふ所を描いた一段、心往くばかりの筆致といふべし。上海で脚色上場されたが、その當時隨分歡迎を受け、『宦海潮』以後の傑作であるとの評であつた。

殺 子 報 清廉訪案、通州奇案、油繆計、陰陽報

花旦(徐氏) 老生(王世成) 小生(官保) 老生(塾師) 丑(和尙)

前清光緒初年の事實譚である。江蘇通州の片田舎に王世成といふものがあつたが、不幸病死したのでその妻徐氏は息子の官保と娘の金定とをかかへてカツカツ暮してゐた。徐氏は性嬌、天齊廟の和尙と私通し晝夜公然出入して毫も顧忌するところがなかつた。官保はこれを見て大いに怒り、或時和尙を逐ひ出し、天齊廟まで進ひかけて毆打した。和尙はそれか

と暫らく来なかつたが、徐氏は廟を訪ねて和尚から委細を聞き、子供を殺す心を起し、同夜官保を殺害し、ズタズタに斬つて屍體を油壺に入れた。これより先、姉の金定は母の毒計を氣付き、官保の通學してゐる塾に行つて、官保に家に歸るなといつたが、塾の先生はソナ馬鹿なことはないといつて官保を歸させたが、果して翌日から官保は塾に来ない。これは可笑しいといふので徐氏のところへ行つて探つて見ると、徐氏の言語舉動が怪しい。そこで終に官に訴へようとしたが、證據がないので躊躇してゐると、その晩夢枕に官保の靈が現はれて殺されたことを告げる。意を決してその妻をして官に訴へさせる。この訴訟數年に亘つて決しなかつたが、通州の知州の探偵によつて真相が判り、江蘇巡撫の裁判によつて和尚と徐氏が死罪となる。

鐵テイエ 筆ビ 血シユエ

前清の末、漢陽の一學生張孝強は、國家政治の紊亂に忍びずとなし、新聞社を創立し、その妹月霞と共に、官場の腐敗を攻撃してゐたが、道台金某の怒に觸れ、革命黨と誣ひられて銃殺される。月霞は兄の仇を報すべく、名前を隠して金の妾となり、終に金を殺して兄の仇を復す。

剪チエン 刀ダウ 血シユエ

民國四年頃北京三慶園で、女優劉菊仙一派の上演した教訓劇。左の目錄に依つてその内容を察すべし。

第一幕、胡木匠勸女賣淫 胡桂花倚門待客。第二三幕、李殿芳誤入淫窟 胡桂花強結孽緣。第四幕、李夫人庭闈責子 王媒婆夫命求婚。第五幕、吳雪娘立志奉母 吳夫人允謀請婚。第六七幕、李殿芳燕爾新婚 吳雪娘勸夫勵志。第八幕、蔡虎卿相邀狎妓 王花子窺見醉人。第九幕、胡桂花下毒手 李殿芳醉中斃命。第十幕、吳雪娘含冤莫白 李夫人告媳殺夫。

第十一幕、明縣令矜念冤情 吳雪娘公堂對簿。第十二幕、明縣令夫妻問案 吳小姐看捕衙。第十三幕、吳夫人痛女銜冤 凌義方遞詞代訴。第十四五幕、李夫人催審上控 吳雪娘苦受嚴刑。第十六幕、凌研生上控伸冤 王聰伯竭力偵探。第十七幕、惡禁婆敲詐雪娘 吳夫人探監痛哭。第十八幕、王聰伯偵查要案 王花子頭作證人。第十九幕、蔡虎卿被嫌疑 王聰伯注意玉墜。第二十幕、凌研生搜查證據 杜少游爲友盡力。第二十一二幕、王聰伯首告虎卿 首張縣令存心詐蔡。第二十三幕、高知府改裝暗訪 凌研生竭力偵查。第二十四幕、杜少游相助設計 胡桂花露真情。第二十五幕、高知府盡心調查 凌研生搜齊證據。第二十六幕、張師湯惶恐認罪、高知府提案嚴訊。第二十七幕、胡桂花受刑認案 吳雪娘出獄還家。第二十八幕、李夫人登門謝罪 凌研生喜得美妻。第二十九三十幕、李懷姑求嫂恐罪 吳雪娘哭奠亡靈。第三十一二幕、節孝婦奉旨建坊好姻緣都成着屬。

第十七章 民國

家庭チエン 恩怨エンユアン 記キ

前清陸軍統制王伯長は、革命軍が起つた時逸早く見切りをつけ、金を持って故郷に歸る途中、上海で名妓小桃紅を受け出して妾にした。ところが桃紅には提督の息子で李簡齋といふ色男があり、桃紅が王に受出されて後も屢々あひびきをしてゐた。一日花園で喃喃私語してゐるところを、王の前妻の子重申とその許嫁梅仙に見られ、却つて毒藥を以て王を殺さうとしたが、果さず。罪を重申に塗りつける。王は桃紅の色にあくまで迷つてゐることとて、重申を逐ひ出すと、彼は自殺して死ぬる。許嫁梅仙はそれを聞いて痛になる。王も漸く後悔してゐるところへ、李簡齋が深夜扉を乗越えて忍んで來

たところを兵に捕へられたので、初めて真相が分り、王は桃紅を斬殺す。王の同郷人何三山が上海で孤兒院をやつてゐるので、彼は自分の財産を全部之に寄附して自殺しようとしたが、三山の勸めで思ひ止まり、自分は又軍務に歸る。

陳七奶

民國二年の冬のこと、北京城外椿樹頭條胡同に住める陳葵香といふ役者の母に陳七奶奶と呼べる者、私娼を業とし七人の女を置き、商賣仲繁昌を極めてゐたが、客と客との鞘當てから何か陳七奶奶の家で革命黨が秘密相談をしてゐると密告したものがあり、警察で手を廻して某日某夜踏み込んで、遊客三十餘人を珠數つなぎにした迄はよかつたが、革命黨の相談とは眞赤な嘘で、而も珠數つなぎにされたものの中に、堂堂たる國務總長（陳と許）が二人までゐたといふ騒ぎ。けれど八大胡同は人眼につくので、國務總長以上は大抵暗娼を相手にするものと知られたり。上海の劇評家馬二先生（馮叔鸞氏）が之を脚色して九幕とした。

閻瑞生

蓮英活捉阿寶

花旦（蓮英） 小生（瑞生） 彩旦（阿寶）

民國九年六月上海で起つた名妓殺しの事實譚を脚色したもの。杭州人王長發の娘に蓮英といふものがあつた。長發は阿片飲みでその爲めに家は貧乏する。長發の妻董氏の友達で、上海に藝妓屋を開いてゐる阿寶といふものが、蓮英の美人なるを見て藝妓にせよと勸める。とうとう一家上海に移つて蓮英は阿寶の家から出る。新世界の花選（人氣投票）で彼女は花國總理になるなど全盛を極める。馴染客に閻瑞生といふ男、これも洋人設立の學校を卒業した教育ある青年であるが、友人朱老五の紹介で蓮英と相識る。然し彼は放蕩な男で、札つきの拆白黨で、友人の吳春芳方日珊といふ二人の無頼と共

に、ある日蓮英を自動車に載せ、北新濱第二虹橋までドライブし、彼女を殺してその身に着けてゐたダイヤモンド等を奪ふ。兇行後一ヶ月を経て徐州停車場で捕まり、十一月死刑を執行された。

老五殉情記

江蘇無錫人で愛寶といふ娘。十三歳にして同郷の陳阿福に嫁したが、阿福は品行が悪くて正業を勤めず、加ふるに姑の病氣などで、杭州に身を賣つて藝妓となる。そこで老五といふ名がつく。一年ばかりで上海小花園にくらがへする。そこで羅丙生といふ男と想思の中になる。丙生が商賣に失敗して借金を負ふ。彼はよそながら老五に別れを告げ、寧波行き汽船の上から海に投じて死んで了ふ。彼女は終に鴉片を飲んで情人の後を追うたのである。

第十八節 年代不明の諸劇

風箏誤

旦（淑娟） 小生（韓世勳） 彩旦（愛娟）

李笠翁の『風箏誤傳奇』を京劇化したものである。韓世勳は亡父の友である戚輔臣の許に在つて勉強してゐる。輔臣の子友先と仲が善かつた。輔臣の友人に詹武承といふものがあり、その妾梅氏の娘を愛娟、柳氏の娘を淑娟といふ。一日、友先は大きな風箏（たこ）をつくつてそれに世勳に詩を書かせた。その風箏が隣りの詹家の柳氏の庭へ落させた。淑娟は美人で才女である。忽ちこれに和する詩を書いた。戚家の書生は之を持ち歸つた。世勳は今一ツ風箏に詩を書いて詹家を

目がけて放したが、生憎今度は梅氏の庭に落ちたとは知らない。愛娟は之を利用して、忍んで来いといふ返事をした。世勳は戚公子になり済まして忍んで来たが、愛娟の容貌の世にもまれな醜くさに驚いて逃げ歸る。間もなく世勳は試験に及第して、詔に依つて四川へ出征してゐる詹武承の幕下に参し、大いに功を建てる。さても戚輔臣は詹武承の囑を受けて愛娟淑娟の婚を探し、友先に愛娟を、世勳に淑娟を配はせる。愛娟と友先とは問題もないが、世勳は淑娟と愛娟とを取違へてゐるので承知しない。然し無理矢理に結婚させられ、よく見ると先達ての女ではない。風箏の誤だと分る。

賣身投靠 雙珠鳳

小生(文必正) 閨門且(霍小姐) 花且(倪鳳姐)

『雙珠鳳』といふ小説の一節。文必正といふお誂へ通りの才子が文仙庵に参詣の折、霍小姐の珠鳳を拾ひ、手づから之を返して訂婚しようと思ふが、霍家は大家のことだから容易に入れない。そこで倪といふ周旋屋の婆さんに頼み、下男になつて霍家に住み込む。その前に倪の娘の鳳姐とスツカリ出来て了ひ、第二夫人にする約束をする。

送花樓會

小生(文必正) 小且(秋華) 閨門且(霍小姐)

『賣身投靠』の續き。文正は霍家に入つてより、常に娘の霍定金を見、彼に近寄るべく力めたが何の機會をも捉へ得なかつた。偶々霍家の老夫婦は韓家の慶壽から歸つて、霍興(文必正の僕名)に蓮華一對を令嬢に送らしめた。そこで文は喜んで蓮華を送つた。けれども梯子段の所まで来ると婢女秋華に出會ひ、其の上樓を斷わられた。そこで霍興は詮方なく自文の文必正であり婚姻を求むべく奴僕になつて来たことを告白し、令嬢との面會斡旋方を願つた。心弱き秋華は同情して

令嬢定金に其の事を傳へた。定金は一時嬌怒したが遂に樓上にて面會することだけを許した。料らずも遂に氣に入り證據物を交換して終身の契りをするになつた。

堂樓詳夢

花且(霍定金) 小生(文必正) 文丑(朱瞎子) 丑且(霍斌) 丑且(秋華)

『送花樓會』のつづき。青年文必正は霍天官の娘定金と戀仲となり遂に終生を誓ふ。文は霍府に居れなくなつて脱走し浴陽に歸る時、近い中に父の許を乞ひ、必ず冰人を以て正式に結婚する事を約して別れを惜んだ。可成り時日は過ぎても、梨のつぶて、何の音沙汰もない。定金どうした事かと思ひは積り、日日部屋に獨り引きこもつて快快として憂き日を送つて居る。一夜紅い衣物を着、草鞋を穿いた文必正の姿を夢で見る。戀しい君の身の上にか變事があつたのではないかと思案の末、侍女の秋華と相談して、下男の霍斌をして賣卜者の朱瞎子を呼びにやり、夢の一伍一什を告げて判斷させるといふ丑の滑稽劇である。

合 鳳 裙 鴛鴦鏡

花且(吳小娘) 小生(劉公子)

乾家の吳氏と、坤家の劉氏とは、約婚の件。結婚の當日となつて劉氏の娘は、俄に病氣となり、床に臥す。止むなく弟を女装させて姉の代りに乾家に興入れさす。一方乾家の吳氏の息子も、父に従つて前日外出したきり歸つて来ないので、其の妹を新郎に扮せしめて事なく式をすます。愈々床入りとなつて、互に本性を現したが一對の年少夫婦は遂に誓ひをするといふ滑稽芝居である。

嫦娥奔月

天界の物語りで嫦娥は后羿の練つた薬を竊み食ひたるに、后羿之れを知り嫦娥に迫つて靈薬を求め。乃で嫦娥は已むなく月宮に奔り遂に廣寒仙子となる。情節は極めて簡單だが其間に月宮の諸仙子が嫦娥を迎へ、后羿が嫦娥を追ひ來るを吳剛之れと戦ひ玉兔の夫婦が薬を搗く等種種の脚色があり、全十場で嫦娥が花酒を造る場と遊園の場最も觀るべし。

(第一場) 后羿は夫人を伴うて出場し嫦娥に向つて薬を索む。此時まで后羿は自分の練つた薬を盗み食はれたのを知らぬ。然るに嫦娥は其の薬を索むるを聞きて悟られたりと自らその盗み食ひたるを告ぐ。

(第二場) 后羿怒りて嫦娥を追ひ、嫦娥は場を繞つて遁る。

(第三場) 廣寒宮裏の諸仙子嫦娥を迎ふ。

(第四場) 吳剛と后羿の對戰。

(第五場) 嫦娥は后羿に追はれて月宮に奔り入る。后羿思を遂げざりしを憤り、射日の弓を持ち來りて月を射る。

(第六場) 兎夫婦は后羿と戦ひて敗れ吳剛に援助を乞ふ。吳剛は金箍棒を手にし四足の虎を連れて后羿と天上に戦ひ、后羿大敗して遁る。吳剛とは月の桂を切る者。

(第七場) 嫦娥中秋節に遇ひ、花を採つて酒を醸す。

(第八場) 及(第九場) は瑤池王母が后羿の爲めに起訴し、后羿は瑤池に至り吳剛を控訴す。

(第十場) 澄み渡る天界の夜半、嫦娥は四仙子と四仙女とを伴ひ、中秋の月桂を賞し、仙子と觸を擧げて遂に銘釘す。

諸仙女避けて去れば、嫦娥は衣を更へて彷彿たる銀河を顧みて綠意紅情に堪へず翩翩として舞ひ、自ら思を遣る。所謂霓裳羽衣の舞である。

天女散花

正旦(天女)

伽藍は如來の命を奉じ天女の許に到り、毘耶離大城なる維摩の室に花を散らしその病を見舞はんことを請ふ。乃で天女は花奴を伴ひ纏縛たる雲路を辿り、須彌山を越え四顯山、畢鉢山、普陀山等の絶景を賞しつつ毘耶離大城に來る。同城にては如來が金剛羅漢、沙彌伽藍、文殊菩薩及諸衆生を率ゐて維摩の病を見舞ふ。文殊は維摩と問答し、維摩は衆生の病は自分の病、衆生の病癒ゆるは自分の病癒ゆるなり、自分の病は大慈悲心よる起ると大いに現身說法の際、天女來りて花を散らすと云ふ所で劇は終る。此劇は専ら歌舞を主とし、其の舞は支那の純古式と日本の踊及び西洋の舞踏の特徴を調和したもので、一舉一手一投足皆な法則に依ると稱せられ、詞曲の優美なると莊嚴なる表現とを以て評判が高い。梅蘭芳の特別劇。

戲牡丹

花旦(白牡丹) 外(山石道人)

八洞仙の籍に列る呂祖師純陽は嘗て蓬萊弱水の間に遊び、宇宙天荒の中を徜徉して足跡を留めない處がない。一日純陽の山石道人は勞山に遊び一小艾の白牡丹を見る。神仙又人情に漏れず心を傾け、色色ともちかける。即ち陰を取つて陽を補ふこと。神仙が白牡丹に戯れる様を寫した遊戯三昧のものである。

天河配

七夕の節に演る芝居で、いふまでもなく牛郎織女が、一年に一回七月七日の夕、鵲橋に相遭ふといふ神話。いはゆる燈彩戲の一つである。

麻姑獻壽

旦(麻姑) 旦(四仙子) 老旦(王母)

天界の物語である。西王母の誕生日は、一年一度の蟠桃大會で、上中八洞の神仙は、皆壽を上つる。百花牡丹芍藥海棠の四仙子は、麻姑を誘ふ。麻姑は野花を採集して百花の酒を作らんとし、絳珠河畔に靈芝を得、百花酒成る。西池開宴の日、麻姑は壽を祝して百花酒を奉る。祝壽の時の歌唱きくべし。いはゆる古代服装劇の一。

虞 小 翠

民國十四年徐碧雲初演。聊齋志異に出づ。狐の物語である。靈狐小翠母子は、ある日雷雨に遭ひ、越人王太常の書齋に逃げ込み、王の福澤に依つて雷劫を免かれた。母狐は報恩の意味で小翠を人の形とし、太常の子元豐の妻とした。太常と同郷に王給諫といふがあり、太常を陥れようとしたが、小翠の智慧で免かれる。給諫は一日太常の家に行くと、元豐が皇帝の着物をきてゐる。これは怪しからぬといふのでそれを口實に太常を弾劾したが、調査の結果右の皇帝の着物は玩具であることが判る。けだし元豐は阿呆であり、そんな子供らしい事をして遊ぶのであつた。ある日元豐は小翠と一緒に入浴したところが、小翠は熱湯をかけて元豐を殺す。太常夫婦は大いに小翠を責める。小翠は黙つて王家を去つて了ふ。暫くして元豐は生きかへる。小翠が靈丹をのませたからである。小翠は後また歸つて来る。

尼姑 思凡 思凡

青衣(小尼趙氏)

この劇は或る山門に人となつた趙氏の尼僧が一旦人生の春に遇うて、世間戀しさに堪へず藏經を捨て袈裟を破り彌陀の情に背いて夢の如く山門を遁れ出づる心持を仕組み觀せたもの、全場一人で演ずる。歌の意味を知らざれば何等の感興を惹くまい。此の曲を解せんが爲め左に全曲本の和譯を掲げる。

(佛曲) 昔し目蓮僧は母を救はんとして地獄の門に臨む靈山の路程を問へば十萬八千有餘零と南無阿彌陀佛……。

(詞) 淺ましや我れ髪を斷つて尼となる、一盞の禪燈を眠の伴として、月日は流れ青春は逝く。小尼趙氏法名は色空、うら若き身を佛門に托して、朝夕の讀經念佛よ。訪ふ人も無きこの御堂、鳥は啼き花は落つるも誰か知らん、ああ悲しやな。

(唱) 小尼、年は二八の蕾の春を無慘や黒髪を斷つて此の姿、日ねもす佛殿に香を焼き水を換ふ。山門下に戯るる幾人の子弟の時に我を望み見るに、我れ亦彼を打見遣れば、彼れと我れ親しき情の通ふかな。奈何せん彌陀に托せし此身のなどか姻縁を成し遂げん、寧ろ閻魔殿前に死して彼の手に確づかれ、鋸られ、油鍋に投ぜらるれば本望よ。いや彌陀に托せし此身、ああ思ふまじ。されどまた、ああされどまた……。

我が父と母、佛を信すること厚く、朝參暮禮焼香供佛我を生んで病多く、我を捨てて空門に尼となす。今や人の爲に追善念佛、只聽くものは鐘の聲、搖鈴の音と法鼓の響、陰府の爲に此の苦業。多心經は念じ盡したるも孔雀經は解し難い、師父の口吟むを夢裏に聽いた蓮經七卷南無佛妙咀嚙薩嘛呵般若波囉——ああ彌陀恨めしや媒婆……。

(小尼かく唱ひながら幾折の迴廊を繞つて羅漢堂に出で来る。其處には五百羅漢が種種の形をして居並ぶ。)

(唱) 迴廊を繞つて憂を遣れば……ああこの羅漢様の行儀の好きよ、ああこの羅漢様の姿の可笑しさよ、一つは膝を抱いて我れを氣にしたやう、一つは頬杖突いて我れを想つたやう、一つは細い眼を開いてぼんやり我れを見遣つてる。ああこの羅漢は笑つてゐる……時が錯つた、光陰は過ぎ行く。誰かああ誰かこの年老いたる我れを娶つてくれる者があらうと云ふやうに、降龍羅漢様は我れに愛憎をつかしたやう、伏虎羅漢様は我れを恨むやう、長眉大仙は我れを愁ふるやう……丁度我が年老いての行末を案じるやうに。佛前の燈は洞房花燭にはなるまい、香積厨は玳筵東閣にはなるまい、鐘鼓樓は望夫台にはなるまい、草蒲團は芙蓉の軟褥にはなるまい。我れはもと乙女子であるのに何んで腰には黄縑を纏ひ身には直綴を着てゐるだらう。人人は夫妻歡樂に酔うて錦繡の衣に纏はれてゐるのに、ああ我れのみ何として此の姿……お今日佛父も師兄も留守である、山を下つて俏俊の少年を尋ねて……。さうださうだ……袈裟は破らう、藏經は埋めよう、木魚は棄てよう、鑊鉢は毀たう、羅刹女の降魔も願はない、南海水月の觀音座をも願はない、夜深うしては獨り臥し、起きては獨り坐す、何處に我れのやうな孤悽に悲しむものがあらう。何んの爲めに黒髪を削つた、恨めしや嘘つき坊主。天下の園林何處に樹木佛がゐやう、枝枝葉葉何處に光明佛が居やう、江河兩岸何處に流沙佛が居やう、何處に八萬四千の彌陀佛が居やう。我れは今より鐘樓殿を遠く去り、山を下つて美しい少年を尋ね出し、其の人から打たれ罵られ笑はれよう。佛ともなるまい、彌陀般若波羅をも念すまい。よし逃るは今の間よ……。——(村田孜郎氏の譯に據る)——

龍馬姻縁

前清道光年間に編著された『極樂世界』といふ脚本に根據したもので、實に亂彈あつて以來の最も古い脚本である。中國人馬駿なる者、才文武を兼ねてゐたが志を得ず、海に泛んで羅刹國に到り、樓鳳山で女首領龍鳳と夫婦となり、太傅錢柱の保奏に依り、兵を率ゐて夜叉國を平げ、南安伯に封ぜられて南安關を鎮守する。羅刹國王はその妹龍珠公主を馬駿に

與へ龍鳳を伯爵夫人とする。龍珠公主は身の尊貴を頼んで龍鳳夫人を凌ぐので、龍鳳夫人はもとの通り樓鳳山に歸る。茲に太師蕭敬は、國王の位を篡はうと思つてゐるが、馬駿が恐ろしくて仕方がないので、女婿何爲仁と計を定め、王后に運動し、國王に馬駿の叛逆の形跡がすでに現はれてゐると奏し、太傅錢柱をやつて馬駿と龍珠公主を召回して馬を獄に入れ、馬をして龍鳳夫人に手紙を出して呼寄せさせ、以て一網打盡にしようとする。龍珠公主からの密使により此の事を知つた龍鳳夫人は、男装して牢を劫かし馬を救うて樓鳳山に歸る。蕭太師は何爲仁をして軍を率ゐて宮中に亂入させ、國王を弑して自から王となる。龍珠公主は樓鳳山に遁れて援兵を求め、龍鳳夫人先づ兵を起して東安關を破り京師を衝くや、馬駿は海岸巡視から歸つて間道から京師を襲ひ、兩軍夾攻して功成り、馬は終に國王となる。

青石

山

山

青石洞寶符捉妖、請師斬妖

武旦(九尾妖狐) 紅生(關羽) 武淨(周倉) 小生(周從綸)

崑曲『請師斬妖』に出づ。青石山風魔洞に千年の九尾妖狐があり、化して美人となり周從綸といふ者をたぶらかす。家人は心配して王といふ道士に魔を拂ふことを頼んだが駄目。そこに呂純陽(呂祖)が來て、關公及び周倉等がすでに天將となつてゐるのを呼迎へ(崑曲では二郎神楊戩)以て九尾狐を降す。武旦と小生との芝居。

大

香

山

妙善出家、火燒白鶴寺、觀音遊十殿

旦(妙善) 老生(莊王)

本劇の全本節目を擧ぐれば『楚妙姬洪福得聖女。妙善女學道修仙。莊王無道逼女配姻縁。西天佛祖命達摩師搭救妙善。莊王火燒白鶴寺。妙善女捨手眼醫父病。香山寺得道合家成果。觀世音奉佛旨查地府。功行四滿五聖上西天。』の一段がある。

莊王天に祈つて三女妙善を得たが、彼女は幼より佛道に心酔し、父より婿取りを勧められたが應ぜず、父は或は七尺の紅綾を賜り、或は白鵲寺を焼き、種種彼女の心を廻さうとしたが終に頭を回らさず、得道して觀音となつた。

大 鋸 瓦 王家莊、百草山

王家莊と云ふ所に王大娘と呼ぶ怪物がゐた。魔法に精通し死んだ人の嚙食管を取つて大小自在なる黄磁缸を造り雷を避けるのであつた。其の中に生靈の膏血を絞り人類の精髓を奪ふ事をこととしてゐた。白衣觀世音は生靈を濟度し人類を救濟すべく、土地神を補鍋匠に化けさせ缸を修理すると見せて之を不意に粉粹した。其中に觀世音は佛法を旋し諸天神及天將を召集して此の怪物を退治する。

琴 挑

陳妙常は潘必正と許嫁の間であつたが未だ嫁せずして兵亂の爲めに離散す。父母相繼いで病歿し、妙常は遂に髪を剃つて尼となる。其の後潘必正は會試に落第し、適々妙常庵に寄寓する身となり朝夕相見も均しく未だその許嫁たるを知らぬ。或る月朧ろの春の宵、潘生は一人庭を散歩する時、何處となく琴の聞ゆるに、之を訪へば朝夕相見る美しき尼僧であつた。潘生も亦琴の名手にて兩人はここに琴を弾じて相愛す。後始めてその許嫁たることを知り遂に夫婦となる。

童 女 斬 蛇

彩旦(道姑) 花旦(奇娥)

山西將樂縣に何といふ姓の道姑があつて、愚民を迷はして金を捲き上げるのを商賣にしてゐる。どこからか蛇を一匹も

つて来て、之を金龍大王と稱して祭ると、愚民は賽錢を獻じて廟を造る。何道姑揚言して曰く、八月朔日は大王の誕生日だから、一人の童女を犠牲に供したら地方は安全だらうと。それで毎年さういふ例になつたが、富家は賄賂を出して免れるけれど、貧家の女は致方ない。もはや今年で九人の童女が犠牲になつた。十人目が李誕の娘奇娥といふに中つた。彼女は何道姑のところで道姑の弟子慕貞と意氣投合して道姑の秘密を探り、二人共謀して奇娥は先づ蛇を殺し、慕貞は火を放ち、混雜にまぎれて逃れ出で、二人は縣衙に訴へ出る。何道姑は捕へられ何もかも白状する。大王廟は奇娥に下し置かれ、慕貞は李誕の養女になる。(梅蘭芳編)

瑤 池 會 偷桃赴宴

丑(東方朔)

東方朔は仙人にはなつたけれど貧乏は依然たりで甚だ閉口してゐる。そこで一計を案じ西方玉母が瑤池に宴會を開いてゐるところに行き、桃を盗む。監守神に看破されて玉母の前に引出されるが、彼は滑稽の故態を逞しうして侃侃申辯するので、母はその雄談を喜び、罪を咎めないのみならず酒を與へる。彼は酔拂つて意氣揚揚として歸る。

一 縷 麻

趙令嫻といふ美少女は、幼にして史生の許嫁となつてゐる。史生は馬鹿を以て知られてゐる男なので、世間の人は皆氣の毒に思ふ。本人は尙更の事である。趙の友人に華俊甫といふ翩翩たる佳公子がゐて、文字の交りがあり、互ひに憎からず思つてゐる。さて愈々史家に嫁入つたが、厭で厭で仕様がなない。暫らくするうちに傳染病に取附かれる。誰もイヤがつて室に入らないが、史生だけは一寸も恐れず、色色藥の世話やら何やら一人でやる。彼女の病氣はすぐによくなるが、史

生に傳染して今度は直ぐに死んで了ふ。彼女は濟まないと思ふと共に、今までの自分の所業が悪かつたと考へつく。そして華俊甫との交を絶ち華からの手紙は開封せず返す。家に歸つてからも華には會はない。貞女の名が今に残る。

妻タイダアン同トシ惡ウツ報バウ

正旦(柳氏) 外(善祥) 彩旦(後妻) 丑(後妻の弟) 老生(廣仁)

江蘇上元縣の商人稽善祥の長子廣仁、その妻柳氏賢明でよく家を理めたが、善祥の後妻が財産分配の事から柳氏を忌み、その弟と謀つて謠言を散佈し、廣仁、柳氏を反目させる。廣仁は柳氏に自盡を迫るが、彼女は公平な父善祥が歸るまでは死んではならないと思ひ、手紙を善祥に残して置いて、蓮花庵に入つて尼になつてゐる。後善祥が歸つて此事を話してから、廣仁も漸く悟り、子供をつれて詫びに行くが柳氏はどうしても歸らない。後妻の黨は事破れたと見て善祥等の歸途を擁して殺さうとするが、龍にさらはれて了ふ。(馮子和編)

牧カ 羊ヤシ 卷チヤン 席棚會妻、雙槐樹

老生(朱春登) 小生(朱春科) 老旦(朱春登の母) 彩旦(朱春科の母宋氏) 青衣(朱春登の妻趙氏錦裳)

山東の人朱春登と従弟の春科とが皇帝の旨を受けて西施國黃龍の亂を平定に行つてをる後で、春科の母宋氏は春登の財産を横領しようとして、戦地から來る春登の手紙を奪つて見せず、且つ春登は死んで了つたと云つて、春登の妻の趙錦裳に宋氏の甥の宋成と云ふ悪者をくつつけようとした。趙氏が命に應じないので彼女を殺さうとしたが、果ては牧羊山と云ふ山の中に捨てられたのであつた。一方戦地に在つた春登は大いに西施を破つて功績を立て平西侯に封ぜられ、春科も忠

義大夫の職を得て共に故郷に歸つて來る。吾家に來て見ると門庭沉寂として誰も居らず、叔母の宋氏に訊いて見ると母も妻もお前を思つて病氣になり、遂には不歸の客となつたと云ふではないか。彼は失望落膽し、此の冠誥も誰にか着せよう爵祿や體官や皆用のないことである、山に入つて修練すると云ひ出す。そして先づ我家の墓地の前に席棚を立てて七日の炊出しをやり、貧苦の人に恵むこととなる。かかるところへ春登の老母と妻の趙氏とが飯を乞ひに來て雙槐樹のあるのを見付け我が家の墓ではないかと號叫した。春登は之を聞いて出て來ると二人の女乞食であつたので、不思議なことよと若い乞食を呼んでいろいろ訊いて見ると紛れもない我が妻であつたので、老母をも迎へて一家の團欒を喜ぶ。また宋氏は春登から呼ばれて來ると、趙氏と老母がゐるので一語も辯解することが出來ず、春科に勧められて天に誓はうとするところを龍にさらはれる。

釣テイヤオ 金チン 龜クイ 張義得寶、孟津河

老旦(康氏) 丑(張義)

康氏といふ婆さんがあつた。夫の張世華が死んでから改嫁を勧める者があつたけれども可愛い二人の子供の爲を思つて、後家を立て通して來たのであつた。長男は仁と云つてもう妻を迎へ官吏になると頻りと勉強してゐる。次男の義は出世の志もなく、漁師となつて日を送つてゐた。而して仁の妻と云ふのがならず者で貧に耐へず、又事に康氏に喰つて掛るので、康氏は已む無く弟の義をつれて分家したのである。或日義がいつもの如く孟津河に行つて釣をしてゐると、金色の龜が掛つた。康氏は義の孝行が天に届いたのであると云つて喜ぶこと限りない。義は又兄の仁が進士の試験に合格し祥符縣の知事に任ぜられたと云ふ吉報を齎して之を母の康氏に告げると、重ね重ねのお目出度でニコニコであつたが、隣り近所で聞くと官報は仁の妻が受け取つて急いで祥符縣に向ひ、去る時に康氏と義とを餓死させると云つてゐたと云ふの

で大いに悲觀し、義をすぐ祥符縣へやる。老旦の唱工戲。雲甫の特別戲である。

行路哭靈

老旦(康氏) 丑(張義の靈) 老生(張仁)

「釣金龜」の續き。次子の張義を祥符縣にやつた康氏は其の歸りを今日か明日かと待つてゐたが、もう二月餘になるのに何等の便りも無いので、康氏の心配は非常なものであつた。さうしてゐる中にある夜、鼻から生血を出した張義が夢に立つたので、これには必ず彼の身に何か異變があつたに違ひないと感付いた康氏は、遠路を憚らず途途乞食をしつつ祥符縣へと向ふ。何日かかつて漸く祥符縣に着いた康氏は縣衙に行つて長子の仁に會ふ。仁は讀書人であつて進士に及第した程の者であるから、老母に對していろいろと不孝を謝する。が、康氏はそれには殆んど取り合はず、義のこの心配してゐるので義はどうしたかと聞くと、仁は初め云ふのを躊躇したが聽て弟は自分の留守に急病で死に、妻の王氏が納棺して只今東の書齋に置かれてある旨を答へた。康氏は此の意外のことを目前に聞いて、驚きと悲しみの餘り殆んど死せんとす。そして其夜義の靈柩の傍に寝たところが、義の魂が現はれて來て嫂の王氏から七寸の釘をうたれて慘殺されたことを告げ、城隍廟に靈顯の應報を願つて呉れるとたのんで行く。康氏はそれで翌朝仁から賽錢を貰ひ受け廟に詣つて訴へる。

青樓夢 敗子回頭、沉香床

俗語の「敗子回頭金不換」の一言は此劇より來たもので、即ち能く過ちを改めて新生涯に處し得ることを形容した言葉である。鎮江に金伯道と云ふ者が居つた。その甥なる金不換の上進を圖るべく銀五千兩を持たせ揚州の岳家に書を修むべく行かした。金不換は揚州に着いて悪人に誘惑され青樓に没頭した。所有の金銀は悉く蕩盡したが、妓女はその餘産ある

を見て妾になることを囑望した。そこで金不換は買受金を整へるため家に戻つた。叔父に其の事を願つた。叔父も彼の心情を察し、妓女の浮薄を吞込んでゐるから、即坐に承諾して種種なる錦繡と莫大なる珍寶を携へて金不換と一緒に揚州へやつて來た。妓樓へ行く前に甥の爲に一計を考へ、乞食に扮装させて妓樓へ行かしめ、最愛なる妓女の心情を試させた。すると衣を重んじ情を輕んずる妓の面持ちには直ちに非常に變はり、秋の空と云つた様な心情を露はして見向きもしなかつた。それを見たる金不換は憤慨に憤慨を重ねて、妓女の薄情極まることを悟り即時に頭を新生涯に向けた。それから叔父なる伯道は携帶して來た珍寶首飾を前に並べ、該妓を呼びて説法し其の無良心を責め、遂に眼前にて全部焼き棄てる。

天雷報 青風亭

外(張元秀) 老旦(その妻周氏) 小生(薛繼寶)

豆腐屋張元秀夫婦は青風亭で幼兒(繼寶)を拾ひ、子の無いところから之を可愛がること掌中の珠の如く、長成するのを待つて學校にも入れたが、眞面目に勉強せぬので養父の元秀は大いに怒つて追ひ出した。追ひ出された繼寶は青風亭にると、そこへ恰度生みの母親が來て連れて行つて了ふ。彼は張夫婦に育てらるること十三年にして又た舊の親に戻つたのである。それから後は一生懸命に勉強し、年若くして進士の試験に及第して意氣揚揚と故郷に歸つた。そして両親に張家の老夫婦を引き取つて世話をしやるがよいと勧められ濫漚として出て行く。一方元秀の夫婦は繼寶を失つてからはその仕事にも手が着かず、果ては家業日に衰へて今では乞食とまで落魄してゐるのであつた。老夫婦は村長から繼寶が進士になつたと云ふことを聞いて喜んで青風亭へやつて來、繼寶が今に迎へに來ることであらうと待つてゐる。そこへ繼寶はやつて來たが、お前達は俺の親では無いと云つて相手にはせぬ。老夫婦は今詮方なしと膝を屈して殘飯の一杯でも呉れしてくれと哀願するが肯かず、ただ銅錢二百枚を投げ出したのであつた。老夫婦は憤慨の餘り壁に觸れて死んで了ふ。それ

で繼寶は家に歸らうとすると、天忽ち曇り大いに雨降つたと思ふと、不孝の子繼寶は雷神に打殺されてゐた。

奇 雙 會 販馬記

正旦(桂枝) 老生(李奇) 小生(保童) 小生(趙冲)

陝西省漢中の褒城縣に李奇と云ふ馬商人があり、妻王氏を娶り一男一女を生む。息子を保童と云ひ、娘を桂枝と云ふ。其後妻王氏世を去りて李奇は楊氏と云ふ後妻を娶る。楊氏は心根悪く淫蕩の噂高かつたが、李奇が馬を賣らんが爲め旅立つた留守に土地の田旺と呼ぶ男と密通し息子保童と娘の桂枝を邪魔物として逐ひ出す。李奇は旅より歸り來り子女の居ないのに不審を抱き、妻楊氏及び婢の春花に問ふに、兩人とも病の爲に死んだと答ふるも其の語るところの病證が同じからず、言葉の中に怪しき節あるにより、李奇は愈々疑を深うし春花を責めて鞭つに春花は憤慨の揚句縊死する。妻楊氏は此時なりと夫李奇を縣官に訴へ、縣官胡某に賄賂を使ひ殺人罪として監禁せしむ。話變つて息子の保童と娘の桂枝は家を逐ひ出されたる後別れ別れとなつたが各慈善家の爲めに救はれ、保童は其後舊科の試験に及第し、巡按使に出世し、桂枝は褒城縣令の趙冲と云ふものの妻となる。趙冲が褒城縣に任官した後、妻桂枝は或る夜縣署に坐して居たが、何處ともなく泣聲の聞ゆるのを不審に思ひ、下僕に泣聲の何處であるかを詢ねる。下僕は監房に一人の年老いたる犯人あり、その泣聲なりと答ふ。桂枝はこれを聞いてそぞろに憐を催し、下僕に導かれて其犯人を見るに、意外にも自分の生の父李奇なるに打驚き、翌日趙冲の歸り來るを待ち父李奇を罪より救はんと言ふ。趙冲は桂枝に吩咐けて男装して巡按使署に特赦を願ひ出でしむる。桂枝はそこで特赦状を持ちて巡按使署に到るに、その巡按使と云ふは自分の弟保童で、此處で再び姉弟相會する。一方趙冲の方では特赦状を持つて巡按使署に到り久しく歸らぬのに不審を抱き、自ら同署に赴き斯斯の者來らざりしかと問へば、それは巡按使の爲め奥に牽き入れられたのことで、怒つて署内に闖入すると此處で姉弟と相會する。巡按の

保童は直ちに父李奇を監房より出し冤罪なることが判明し、ここに一家始めて團樂と云ふ筋。此劇は普通に趙冲に嫁いだ桂枝が縣署で泣聲を聴く處から演ずる。

背 娃 入 府 入侯府、表大老爺吃鼻煙

此劇は人情の冷淡を寫したもので、張元秀と云ふ赤貧極まる獨身者が居り、口を糊するに途なくして從兄の李平兒の家に寄食する。或る日勤勉其上なし李平兒は從弟に薪を採らしむべく山へやつた。山へ出掛けた元秀は草叢の中から溫冷玉盞と云ふ宮中の寶物を拾ひ出した。そこで從兄と相談し、寶物を官廷に納め一官職を貰ふ事にした。從兄から旅費を貰ひ嫂からは簪珥で補助されて京都へ赴いた。元秀は終に朝廷から或る官職を授けられ、數年ならずして通侯と云ふ爵位を貰ひ、錦を飾つて郷里に歸り、李平兒と嫂とを迎へて昔の事を語りつつ楽しんでゐた。そこへ會て張元秀を侮辱し馬鹿にした耿金文と云ふ冷淡な者が元秀の出世を聞いて御願ひに來た。その時元秀は昔の虐待を思ひ出し、金文の薄情を説き散に罵倒し侮辱した。

忠 孝 圖 殺狗勸妻

小生(曹莊) 花旦(焦氏) 老旦(曹母)

元劇に無名氏作『楊氏女殺狗勸夫』、明人の傳奇に『殺狗』がある。曹莊と云ふ者、母に事へて至孝、官を棄て樵夫となつてゐる。妻焦氏は夫に似氣なきアバズレで、一日母が飯を催促すると、七八日も前に作つた饅頭をやつたり、腐つた麩を出したりしてイヂメる。莊が歸つて來ると母が門で泣いてゐる。驚いて聞くとかうかうだといふ。莊は先づやさしく妻を叱ると、妻は却つて不貞腐れをいふ。そこで莊は狗を殺して妻に示す。妻は恐れて初めて後悔の念を起す。

烈女傳 九件衣

正旦(蔣巧雲) 小生(錢玉林) 老生(寶德州正堂)

錢玉林といふ油屋が資本が足りないので母舅の蔣金起に借りに行くと、金起夫婦は居ないでその娘即ち玉林には従姉に當る巧雲がゐて、氣の毒だといふので自分の貯金十兩と、繡衣九枚與へ、金は衣服の中に入れてままで玉林に金が入つてゐるといふのを忘れた。玉林はその衣服を質屋に持つて行つて金に代へる。同日喬といふ家でも九枚の衣服と銀八百兩盗まれたので、喬は質屋に行つて調査する。そして玉林が九枚の着物を入質したといふを聞き、枚数が同じなのでテツキリそれと思ひ、寶德州に訴へる。州官も喬の言を信じて玉林を責めるので、玉林は憤慨して州衙で柱に頭を撞いて死んで了ふ。巧雲は之を聞き自分も多少の責任があると思ひ、州衙に訴へ出て、一一この九枚の衣服は自分のものに相違ないといふことを證明し、自殺する。今度は玉林の母と金起とが衙署にかけ込む。結局喬が兩眼をえぐられ、ほんとの賊も捕へられる。秦腔戲、郭寶臣の寶德州州官、崔靈芝の蔣巧雲が有名である。

鐵蓮花 掃雪打碗

老生(劉子忠) 娃娃生(定生) 彩旦(馬氏) 丑(珠兒)

劉子忠の前妻に子なく、甥の定生を後嗣としたが、家政上の不便から後妻馬氏を娶る。連れ子が珠兒。母子二人して定生をイヂメる。大雪の日、定生の服をはいで庭の雪を掃かせる。子忠が歸つて來て大いに怒るが、馬氏に云ひくるめられる。食時の時、碗を眞赤になるほど焼いて置いて定生に渡す。定生が取落して碗が割れる。子忠は何も知らんから叱り飛ばすと、定生は外に逃げる。子忠が後を逐うて見ると兩手が焼けただれてゐる。初めて事の由を知つて今度は馬氏母子と

分居する。老生の做工戲、女優の恩曉峰等のがうまい。

寶蓮燈 劈山救母、打子放逃

老生(劉彥昌) 正旦(王英) 副淨(秦燦)

羅州の州官劉彥昌の先妻の子を沈香といひ、後妻王英の子を秋兒といふ。沈香が學校で、もと太師で今は隠居してゐる秦燦の子官保を誤つて殺す。沈香は自分だといひ秋兒も自分だといふ。劉夫婦は二人の子供を笞を以て責めるが、劉は沈香が母のない子だといふので少しく偏愛するところあり、王氏は秋兒が自分の産んだ子なので些さかひいきするところが、夫婦喧嘩になりかかると、夫人は終に讓歩し、沈香を逃がし、劉が秋兒を連れて秦の邸にあやまりに行くと、秦は怒つて秋兒を打殺す。老生正旦何れ劣らぬ六かしい芝居。

狀元譜 打姪上攻

老生(陳伯愚) 小生(陳大官)

崑曲繡繡記より脱胎せるもの。陳伯愚といふ者老いて子なく、甥大官を養うて子としてゐたが十五頃から悪いことを覚え、人にそそのかされて財産を分けて欲しいと迫る。陳已むを得ず之を許したが、數年ならずして彼は之を使ひ果して乞食となる。一日、陳の家で倉を開いて施しをする。と彼は無恥にも叔父の家に貰ひに來る。陳は一時の怒りから彼を打殺す。陳の妻が可愛想に思つて介抱すると蘇生する。そこで金をやつて衣服でも買つて又來たら、とりなしをしてやるからといつてかへす。大官は喜んで行つたが其晩盜賊に金を盗まれた。清明の節、彼は錢を市上に乞ひ得て、祖先の墓參りをする。陳夫婦がその後によつて來て、墓守りから事の次第を聞き、乞食になつても祖先を忘れぬは、殊勝の至りだとして終

に歸參を許す。

血シユエ 手シヨウ 印イン 蒼蠅救命、法場祭夫

外(林佑安) 青衣(王桂英) 小生(林孝童) 淨(王春華)

奸相王春華に桂英といふ娘があつた。同僚林佑安の子孝童と許嫁にしたのであつたが、後林家が没落すると彼は貧を嫌つて婚約の破棄を企て、林佑安を其邸に招き、林が酔うたのに乗じて無理に破約書を書かせる。桂英は志を更へず、或る日花園で孝童と遇ふや、己の志を訴述し他に嫁入らざることを誓ひ、また銀を孝童に與へ彼を上京させて進士の試験を受けさせることにし、夜三更彼をして花園に取りに来させる。時刻頃花園に行つた孝童は意外なことに出遇つた。それは銀を送つて来た桂英の下婢が殺されてゐたのであつた。孝童は驚きの餘りそのまま我が家に逃げ歸つたのはよいが、下婢の死骸に觸れた時染まつた手で門を開けたからたまらぬ、門扉に眞赤な兩手の跡がついた。孝童はつひに王春華から謀財姦殺で訴へられ、死刑の宣告を受ける。孝童の父佑安が大いに怒つて王邸に嘯鳴り込み、娘の王桂英に喪服姿で刑場に行つて生祭せしめることに承諾させた。桂英に異存のあらう筈はない、直に佑安に従つて刑場に向ふ。佑安は桂英の心中を知らぬので途中之に大いに罵倒を浴びせたりするが、桂英の言譯を聽いて了解する。二人はかくて刑場へやつて来て數多い死刑囚の中から孝童を見附け勞はる。孝童も桂英が父の春華と腹を合せてやつたことのみ思つてゐたので、悪罵を加へなどするが終に事も分り、孝童は老父のことを桂英に託し、今は思ひおくことなしたただ處刑を待つ。而も孝童は全く無實の罪に服したのであるから天も捨ておかず、無数の蠅をして孝童の頸を護らせた。官之を見て必らず冤枉あることを察し、刑を止めて再審にまはす。

義イ 僕ボク 記キ 狗吃人肉

高家敗といふ遊蕩兒があつて、父の死んだ時に藝妓屋から歸らなかつたといふ男である。妻が父の死體を故郷四川に持つて歸らうといつても、彼は繁華な上海に別れることがイヤだといつて取合はぬ。僕人高祿なる者、仕方がないので暇を取つて商人になる。家敗はたうとう財産を蕩盡して了ひ、妻を女郎に賣る。高祿が一日街を歩いてゐると、主人の妻によく似た女郎がゐる。果して彼女だつた。早速金を出して受出し、一緒に家敗の行方を探ると、或山中で行倒れて犬に喰はれてゐた。主人の妻も自殺する。彼は二人の葬ひをよくする。

以イ 徳トク 報ホウ 怨ユアン 人不如狗

外(施員外) 外(孫玉林) 末(鍾植) 丑(王思) 老旦(安夫人) 丑旦(王思の妻)

山東の聊城縣に施忠孝といふ慈善家がゐた。夫人宋氏との間に一女をまうけ幸福な生活をして居る。一日觀音菩薩は施員外の善心を賞でて一和尚に身を扮し施家を訪ねて、近く此の土地に洪水が出るから船を澤山準備して災害から救ふ様勸めて歸つた。なほ出水の時は城隍廟の石獅子の眼が紅くなるから、それで洪水の時期が到來したことを知る様、くれぐれも氣を付けると教へられたので、施は早速其仕度にとりかかり、一方町中に貼紙してこの事を民衆に知らせた。貼紙を見た無賴漢の王思は好き事ごさんなれと早速妻と相談して水の出ない中に衆民に逃げさせて金銀物品を切奪しようといふ計り、紅色の顔料を買つてきて城隍廟の石獅子の眼に塗りつけた。ところが忽ち水聲泊泊、水勢滔滔として見る中に聊城の百姓は激浪にさらはれる状態となつた。施員外は早速船を出して救助に力めた。お蔭で澤山の人が救命されたが、其中に悪徒の王思夫婦も混つて居る外、三人の他郷の人と一匹の犬も救はれて居た。その三人の客人は、絹物を行商する孫玉林と受

驗の爲め上京の途中である鄭德芳といふ青年文士で、今一人は史部侍郎の鍾植といふ者であつた。救はれた人人は皆施員外の大恩に感じ義父と拜する。三人の客人には各々銀を與へて目的の方向に向はしめる。獨り王思夫婦は歸るに家なく留められるままに員外の家で暮して居る。身内の少い施氏は王思夫婦を骨肉の者と同様に好遇する。王思は圖太くも悪心を起し、施員外を亡き者にして家産を横領せんと、縣官に贈賄して縣署の刑名師爺秦某と密かに計つて施員外に盜罪ありと縣官に誣告した。施は縣署に捕へられ家産を王思の管理に移す様命ぜられる。王思俄かに施の一女を別居させ、施家の財産を全部横領してしまふ。安夫人は王思の爲めに殺される。城にも居られず、施は娘と犬を携へて逃げ出す。其の途中柳林に入つて悲憤の餘り縊死をしようとして居る。適々曩に水難から救はれた孫玉林と鍾植とは舊恩を感じ、各々聊城に施氏を訪ねて深謝せんものと來る途中、圖らずも邂逅して同行する。急に犬が吠えるのでその跡をつけて柳林の中に入り瀕死の施員外父子を見付け驚いて救ける。義父子を救つた二人は相携へて聊城に歸り、施家に威張つて居る王思を殺し施父子の餘生を全うせしめたといふ勸善懲惡の人情劇である。(貴俊卿編)

佛門點元

老生(李定邦) 武淨(牛毛) 副淨(班切) 外(班能) 末(文嘉祥) 文丑(普明) 老旦(連氏) 小生(連殿元) 青衣(馬氏) 青衣(文夫人) 小花旦(蘭英)

西羌の牛毛は、大兵を率ゐて潼關を攻める。潼關の鎮守李定邦は、牛毛と對戦して敗れ、眷族と共に四川の義兄の許に遁れる。妻の馬氏は成都の附近で俄に腹痛し一女を産み落した。不思議にも生兒の左手は指が六本ある。避難の途次、手もつれとなるので、李夫婦は其の子を路傍に棄てて走つた。茲に成都の報恩寺の住職普明は娥眉山に經文を寫しに行つて歸る途中、小兒の泣聲を聞き、慈心を起して、李夫婦が捨てた女兒を拾つて歸り養育する。成都の城外に、連氏は、夫の

死後、一子殿元と赤貧の中に暮して居る。一日殿元をつれて、城内の親戚の許に、金を借りに出かけた。途中大風が吹き出し、母を見失つた殿元は、報恩寺の前で途方に暮れて泣いて居る。これを見て普明又彼れをつれて歸つて義子とする。俄に殿元、蘭英の一男一女を得て、普明は子福者となつた事を喜んで居る。男女室を分けて、學問させ、手を盡して養育する。一日、蘭英が花園で遊んでゐると、殿元がやつて來る。其時初めて義兄弟であることを知り、急に意氣投合して玉扇と金釵を取り交はして將來を誓つた。殿元は十八歳、蘭英は十六歳であつた。或る日、普明は殿元を呼んで、試験を受け、上京させる。綠林の徒、班切は叔父の班能と盜賊宿屋を開いて居る。上京の途中、殿元はその宿に泊る。班切は殿元を殺さうとするが、班能のお蔭で一命を取りとめて逃げ出す。土地神の加護で、金錢を與へられ、上京して試験を受け、首尾よく其の年の狀元に及第する。班切の惡徒は又同村の周員外の娘の美貌を見て、一夜侵入して娘を姦せんとし、拒まれて娘を斬殺する。逃げるとき、班切は殿元が置いて行つた僧帽を、故意に周家に落して去る。周員外はその僧帽を證據に、四川の巡按使文嘉祥に訴へ出る。文嘉祥は變装して報恩寺に行き内狀を探る。蘭英の姿を見た文は、つゞき、普明の事と察して、捕手を報恩寺に遣し、普明と蘭英をつれかへり獄に投じた。色色取調べるが判明しないので、其の儘となつて居る。馬氏は銀五兩で、物乞ひをして居る連氏を買つて侍女として居る。一日文夫人の招待を受けた馬氏は、連氏の老媽をつれて文家に行く。色色と話の末、文夫人は報恩寺の一件を物語る。遂に獄中の蘭英を呼び出して事情を聞く。蘭英は殿元と將來を誓つて居る事を話すと、傍に居た連氏はこれを聞いて、我が子の事を思ひ出して泣く。不思議に思つて馬氏と文夫人は其の譯をきく。連氏は前年大風に遭つて母子離散した仔細を物語る。馬夫人も亦十六年前潼關から避難の途次、産んで棄てた子供の事を思ひ出し、蘭英の左手を見ると、六本の指。て、つゞき、己が子と知つた馬氏は、因縁の深き事に驚き相擁して共に泣く。馬氏は文夫人に頼んで、このことを文嘉祥に告げ、蘭英を釋放する様、取計つてもらふ。話をきいて奇遇に驚いて居る文嘉祥の許に、丁度狀元に及第した連殿元を訪ねて來る。遂に班切の惡事が知れ、捕へられて死

刑に處せられ、班能は連殿元を救うた功により銀二百兩を賞與せられる。報恩寺の住職普明の慈心により父母子、再會することを得、一同普明に拜謝するといふので大團圓。勸善懲惡、結構な好い芝居である。現時上海の各舞臺ではこの芝居を盛んに演じて居る。

牢獄鴛鴦

正旦(珊瑚) 小生(衛玉) 老生(周天爵) 末(鄭端甫) 丑(金二朋)

山西太原の富家鄭端甫の娘珊瑚は才貌雙全、一日嫂と五台山に遊び、同郷の衛玉といふこれも才貌雙全の公子を見染める。然るに父は吳太守の息吳延福といふものの中込を容れて之を婿にと定めて了ふ。彼女は大いに悲觀して嫂と衛玉の話をしてゐると、それを仕立屋の金二朋といふ者が立聴きする。彼は豫て珊瑚に懸想してゐたので、結婚の夕、鄰家に闖入して新郎吳延福を殺し、自からは衛玉と稱して珊瑚に姦を迫る。珊瑚が大いに驚いて大聲を出したので金は珊瑚の金釵を盗んで逃げる。衛玉と珊瑚が捕縛される。巡按周天爵は、どうも可笑しいといふのでよく調べて見ると金の仕業と判る。そこで直ちに金を死刑に處し、衛玉と珊瑚とを夫婦にする。梅蘭芳の珊瑚、美妙香の衛玉は、珠聯璧合との評である。

串珠記 蔡鳴鳳、清朝八齣

小生(蔡鳴鳳) 花旦(玉蘭) 丑(魏打算) 副淨(宋標)

山西太谷の蔡鳴鳳は、同郷の祝有徳の娘玉蘭を妻にする。奉天で商賣をして五百兩貯蓄し、故郷に歸る。盜賊魏打算が後をつけて来る。歸つて來て門を叩くと、玉蘭が稍々暫らくして出て來る。彼女は隣家の宋標なるものと私通し、その夜も一緒に酒を飲んでゐたのであつた。鳴鳳がくたびれて寝て了つた後、彼女は宋標と力を供せて鳴鳳を殺す。翌日有徳が

來て鳴鳳のゐないのを不思議に思ふ。玉蘭毒喰はば皿で、父有徳が財産欲しさに殺したと訴へる。何ぞ知らんかの盜賊魏打算は、鳴鳳の後をつけて行つて萬事を知つてゐるので玉蘭の嘘がばれ、宋標と共に極刑に處せられる。

紫霞宮

吳氏綺霞と云ふ端莊貞靜な女が居た。同郡の呂生と呼ぶ書生に嫁いだ。生は試験の爲めに大同縣に赴いて數年沙汰はなかつた。綺霞は戀慕の餘り門口に佇み望んでゐた處へ、四人の僧侶が通りかかり食を乞うた。綺霞は内に導き夫なる呂生の生死吉凶を卜つて貰つた。其の報酬に自分の釵釧を送つた。それが小叔の子の環と小姑伴花の眼に入り、嫂と僧侶が曖昧のことをしてゐると思つて、嫂を譏り、老母にそれを話した。老母に叱られて嫂に謝ることになつた。兄妹二人は憤慨の餘りに夜半に嫂を殺して了つた。老母に知られて二人とも勘當された。それでもまだ悪心を改めず一乞食と結びて嫂の棺を打ち開き、その首飾始め上下の衣服を剝ぎ取り、其の揚句に妹の伴花を打殺して其の財寶を獨り呑みにして了ふと云ふ筋で、綺霞は遂に地藏様に救はれて蘇生し母家に歸つた。

錯殺姦 渭南奇案

陝西は渭南に范得忠范得仁と云ふ二兄弟が居り各々妻を娶つて分居してゐた。一日捕役を力めてゐた得忠は使ひに出ると云ふので得仁を呼び寄せ留守のことを頼んだ。併し得忠の妻なる李氏賽花は若いだけに、得忠の出た後に得仁に、種種の巧言を弄して挑戯した。得仁は書を読んだだけに口實を附けて逃げ出し、隣りの金銀細工屋の呂進才の處へ泊りに行き嫂の無廉恥を語る。そこで竊かに李氏を愛してゐた呂氏は、得仁の熟睡を待つて李家へ行き賽花と雲雨の情を樂しんだ。一對の野鴛鴦、今は巫山の夢に耽りつつ、鼾の聲は高く隣りに響き渡り、隣人は嫂叔の合姦と思ひて得忠を途中に呼び返

した。それを見たる得忠は激怒の餘り一齊に二人を殺し、縣廳へ自首して行つた。途中で得仁に行遇ひて驚き、一緒に縣廳へ出頭すると云ふ筋である。

皮匠殺妻 百萬齋、也是齋

花旦(林玉蘭) 丑(岳子奇) 副淨(楊虎) 武小生(楊盛恭)

皮匠楊虎の妻林玉蘭が、縣吏岳子奇と私通してゐるのを、虎の弟盛恭が看破し、兄に勸めて姦夫姦婦を殺させる。『翠屏山』の模倣。

藥茶計 斬浪子

老旦(浪子の妻の母) 丑(浪子)

張浪子の母は浪子の妻と不和で、毒茶を以て妻を殺さうとしたら、自分のほんとの弟が来て誤つて茶を飲んで死んだ。そこで彼女は嫁が毒茶で殺したと官に訴へる。嫁は拷問に堪へず服罪する。浪子は身代りになつて入獄し、愈々斬られるといふ時になつて事實が分つて特赦される。

蓮花塘 慶安瀾

武淨(虬龍) 武旦(母龍) 小生(小龍)

蓮花塘の赤髮虬龍が、衆水族を率ゐて九華山の天仙聖母のところへ祝壽に行く。留守を預つた龍の子は、鬼のわぬ間の洗濯と、一人の道童に變装し、涿州に行つて富民金銭子といふものの妻とくつつく、そして金銭子を殺す。玉帝その殘忍

を憎み、雷電を以て之を撃つ。小龍は蓮花塘に逃げ歸つて父に訴へる。龍父母は津波を起して人家無數をたほす。玉帝大いに怒り神將の數を悉して龍族全部を生擒する。

白水灘 捉拿青面虎

武淨(青面虎) 武小生(十一郎) 武旦(青面虎妹)

總兵李德俊が大盜青面虎を捕縛して護送してゐると、青面虎の妹が出て奪ひ返す。穆玉磯(十一郎)が之を見て不平を抱き、青面虎を捕へる。武戲として輕業的の技術は此劇に盡きてゐるといつてよい。蓋叫天第一の當り藝。

梅降雪 龍虎劍

淨(公孫越) 小生(衛方) 花旦(白狐) 花旦(孫雪娥)

深山の一狐狸が或る日洞窟を出て叢の中に眠つて居ると、通りかかつた洛陽の武士公孫越はこれをつかへる。殺さうとする所を長安の人衛方の爲めに助けられて死を免れた。救命の御恩報じに白狐は衛方に、孫の娘の雪娥が別嬪である事を語る。白狐は雪娥に化けて洛陽の孫家に行き、已に寄寓して居る衛方の部屋を夜訪ねる。白狐の雪娥を實妹の雪娥と思つて此の不始末を見つけた兄は父の孫に告げる。調べて見ると娘の雪娥は仕事をして何の事もない。度度の事に家人は驚く。雪娥の白狐は色色と衛方を慰めるといふ筋。

看香頭

丑旦(嚴氏) 丑(倪百萬) 丑(使者)

楊州の倪員外は家産あり、妻との間に一子を儲けて楽しく渡世して居る。或時可愛い一人子が病氣に罹つたので近在名高い巫の嚴といふ老嫗を呼びにやらせる。悪病よけに効ある看香頭といふ祈禱をしてもらふやうに頼む。使と一緒に倪家にくる途中、老嫗は使から子供の病氣になつた時日、生年月日、病状などすつかり聞いて置く。倪夫婦は老嫗の巫が皆知つて居るのに驚き、要求されるままに御供物を澤山にするといふ筋。神佛を利用して騙財する方法と迷信とを寫した滑稽劇である。

老西嫗院 陳三兩

丑(曹生) 花旦(陳氏) 丑旦(老媽)

山西太谷縣の者、曹生は父母妻子を家に残して、河南の洛陽に行商に出かけた。他郷で商ふこと三年、望郷の思ひにたへない。一日鬱さ晴らしに、色街に遊びに行く。最近新しく看板を出した陳といふ妓女を銀三兩を奮發して呼ぶ。出てきた女を見れば、美人と思ひの外、襪襪をまとひ、髪は蓬蓬、一點の裝飾品も着けて居らぬ。實に見られたものでない。已に三兩の外に金を出して約束して居るので、仕方なく女と對座して色色と身の上話を聞く。陳はこの稼業を厭うて、成るだけ客に接しない様に、特別高價な花代を請求し、又こんな装りをして居るものだと言つた曹は、曾て老母の戒めを思ひ出して豁然として悟るといふ筋で半ば滑稽劇。

打沙鍋 糊塗案

末(胡子林) 丑(胡掄) 丑(縣官) 丑(沙鍋賣)

胡子林年老いて家貧しく、息子の胡掄は遊蕩賭博を事とし家出して家事を手傳はない。父も持てあまして一日清河縣署

に訴へて出る。縣官は火籤を子林に與へて自由に息子を尋ねさす。子林は方方探して歩く途中で一寸見付けたので捉へようとしたが、それと知つて息子は逃げた。後を追うて走る中、子林は山西の沙鍋賣りと衝突し、沙鍋の大部分を碎いた。沙鍋賣は子林を捉へて縣署に行き賠償をせまる。縣官は早合點して子林が息子をつれてきたものと思ひ、沙鍋賣と子林が色色申立てるのも聞かず沙鍋賣を罵り、且つ打つといふ筋で、昔時縣官とか正堂とかいふ所謂官吏の無智と横暴を諷刺した滑稽劇である。

十ニ紅

花旦(周妻) 丑(畢員外)

肉屋の周が畢員外から金を借り、畢から嚴重な催促を喰ふ。酒屋で一杯飲ませて置いて家に逃げ歸る。畢は後をつけて行くと、周の家に素敵な美人がゐて愛嬌を振りまく。周の妻なのだ。畢は貸金のことなど忘れて了ひ、それから繁繁出入りしてゐるうちに、終に周の妻と姦通して了ふ。

背橙 雙怕老婆

丑(張三) 丑(尤二) 花旦(張妻)

嫌天下の滑稽劇。張三もその友人の尤二も有名な細君をこはがる質だつたが、一日張三は大言を吐いて我輩は嫌なんか恐れぬとやつたので、二人で二十兩の賭けをして、ほんところかどうだかを見に、尤は張の家に行く。張は細君と相談してうまく芝居を打つて二十兩取らうとする。尤は成程張は細君をこはがらぬわい、これは二十兩持つて逃げる外ないと逃げ出す。張の細君は金が取れないので張の背に椅子を縛りつけて追ひ出す。すると向ふから尤二が頭に椅子を縛りつ

けられて街を歩いてゐるのに出會す。彼も妻からかういふ「寵愛」を蒙つてゐるのである。

賣イエン 脂チイ 賣高紅

花旦(王月英) 小生(郭懷)

郭懷といふ書生が試験を受けに上京し、ある胭脂店の娘月英に遭ひ、情投意合、そこへ月英の母が歸つて来るが、粹をきかせてとがめなまいといふ筋。

羅鍋ロオクオツ子搶親チアンチン 金鷄嶺、下河南

國舅胡環に二人の子息があつた。長男の骨相は醜絶で吃りで五體も並ではなかつた。頭も幾分か足りない様で、一寸した顔を持つてゐる女を見ると直ぐ涎を垂れると云ふ天性を受けてゐた。そこで人人は彼に羅鍋子と云ふ綽名を附けた。一日の事、彼は途中で或る女を見た。それから忘れることが出来ず、直ぐさま媒婆を呼んで調べさせ、婚姻を申込みました。その女は白氏と云ふ家の閨秀で容易に承諾しなかつた。終に媒婆の上手な口車に乗り、胡の次男に嫁ぐと云ふことに説きつけられ、次子の結婚と一緒に長男と結婚する様に圖られたのである。

紫ツ 荊チン 樹シュツ 打毘分家

田大、田二、田三と云ふ兄弟があつた。各々妻を娶つて同じ一家に住んでゐたけれども、田三の妻は百姓出だけに慾張つて、其の分産の事を所夫に勧めた。田三は妻の言を容れ親戚に頼んで分家の事を兄達に相談させた。兄等も喜んで分家を承諾し、家産を三つに分け其の上庭前に繁つてゐる大紫荊樹をも三つに切り割つた。翌日三人は其の繁つてゐた大紫荊樹

の頃に枯死せるを見て、敢て分家するを欲せぬ。田三の妻は愧ぢて自ら縊つた。そこで三兄弟は改めて楽しい家庭を作つて行つたと云ふ筋。

英イ 傑チエ 烈リョ 鐵弓鏃

武旦(陳月英)

陳月英と呼ぶ武藝高強の女があつた。父は太原の守備であつて早く死んだ。家が貧乏で母と茶屋を開いて暮してゐた。或日の事太原總鎮史世龍の子息が大勢を連れて茶屋の前を通りかかり月英の美容を認めて、妾に娶るべく暴れ込むが、月英の母に妨げられて散散殴られた。そこへ匡忠と云ふ人が来て其れを仲直りさせた。匡忠と云ふ人の父は史世龍の幕下で、其關係で子息を知つてゐた。それから子息は逃げ去り匡忠は茶屋へ迎へられて色話を聞かされた。その中に壁に掛けてあつた鉄弓を下し力一杯に其れを開いた。結局それは月英の婿選びの媒介者だつた。そこで月英を匡忠の妻に呉れる事になつた。其事を耳にした史公子は父に匡忠の父子を殺すべく銀を京へ送らしめた。その内に史公子はヨリ大勢の人を連れて月英の改婚を迫つた。その時月英は心よく承知して三日延して呉れと頼んだ。三日経つて史公子は轎馬を備へて迎へに來た。料らずも月英の陥穴にかかつて殺された。そこで月英は男子に變装し母を携へて匡忠の親友なる王富剛を天門山に訪れた。併し王富剛は嫂なる月英を見舞ふべく太原へやつて來たところ、月英に殺された史公子の屍骸に累されて王大人に監禁された。王富剛に會はなかつた月英は大行山を通り抜けようとした時に項義伯の女翠娥に差し止められ、王富剛といふ名義で山寨に迎へられ遂に翠娥の婿になることとなつた。偽の王富剛なる月英は三つの約束を立て成功した曉に結婚すると云ふ事になつた。そこで項義伯は前怨を雪ぐべく全權を婿なる偽の王富剛に委ね、大軍を率ゐて太原を攻めしめた。史世龍は殺された。そこで王大人は監獄より眞の王富剛を放免して戦はせた。けれども打勝つことが出来ない。そこで王

大人に匡忠を監獄より出し戰場に向はしむる事を願つた。匡忠は終に自分の妻なる事を發見すると云ふ筋である。

張古董借妻 一疋布

李天龍は同里の富豪周員外の女を許嫁にしてゐた。不幸は重ねて起り、火事で家産は蕩し、オマケに未だ結婚しない許嫁の女は病死した。さうして周員外から『お前が妻を貰ふ時には娘の嫁入支度を上げる』と云はれ、人妻でも借りてその支度を貰はうかと云ふ程困つて居た。同里に張古董と云ふ赤貧洗ふが如き人がゐた。その日丁度妻から白布一疋を持たされ金に換へに出た。途中で李天龍に行逢ひ家に連れ込んで話をした。そこで李天龍が此の相談を持出した時、張は即座に李に同情し自分の妻を貸すことにした。それから李は張の妻を偽つて岳父の家へ連れて來た。そして無理矢理に四五日止められた。張古董は憤慨の餘り李を相手に訴へた。官廳は妻に自由選擇をさせたところ、張を斷つて李に一身を委せた。

別妻 出兵途行、花大漢

花大漢と云ふ武者がゐた。主將と一緒に出征する事になり、家へ歸つて妻に別れを告げた。其の時妻は御馳走を備へて餞別した。一夜は情話で済んで了つた。大漢は妻の若い事を心配し、種種と節操の事を云つて聞かせて出て行く。但し妻なる王氏は所夫の言葉を耳に置いてはゐるが、大漢の出た後で閨中の寂寞を厭うて改嫁を思ふ。

打櫻桃 壽山會

花旦(女公子) 小旦(平兒) 小生(邱生) 丑(秋水)

邱生が親類の家に下宿してゐると、その女公子と相思の仲になる。邱のボーイの秋水も女公子の腰元平兒に參つてゐ

る。女公子の兩親が壽山會に行くので邱生も途中まで行つたが、足が痛いとして歸つて女公子と幽會する。秋水も平兒と幽會する。あとで事露顯して邱生は故郷に追ひ返される。

春秋 配 檢蘆柴、拷打檢柴、檢柴

正旦(姜秋蓮) 小生(李春發) 彩旦(賈氏) 老旦(乳娘)

商人姜韶の娘秋蓮が、繼母賈氏にイヂメられ、乳母と一緒に郊外で薪を採つてゐる。亡き母戀しく彼女は思ひ出しては泣くのである。書生李春發が通りかかつて、彼女の風態が、農家の女らしくないので不思議に思ひ、色色と聞きただし、最後に銀を置いて去る。秋蓮は春發の英偉不凡を見て戀風が身にしみ、終身を委ねんと欲する。春發は嫌疑を惹くことを恐れて去る。秋蓮と春發との戀物語だから春秋配といふ。普通秦腔で演ずるのは此『檢柴』的一幕だが、梅蘭芳、玉鳳卿は皮黄で全本を唱ふ。秦腔でも崔靈芝は全本を演る。

少華山 富貴圖、烤火落店

花旦(殷碧蓮) 小生(倪順田)

宦家の女殷碧蓮は、内縁の夫の醜貌を厭うて婢と逃げる。少華山で盜賊に捕まり殺されようとしたのを、そこに遊んでゐた書生倪順田のとりなしにより助かる。倪は盜魁の親友なので、彼は倪と殷とを夫婦にしようとする。殷は倪の美貌を見て大喜びだが、倪は許嫁があるし、試験を受けに行く途中なので氣が進まない。その晩、女は床の上に、男は椅子の上で手を火にあぶりながら一夜を明す。

池水驛

花旦(殷碧蓮) 小生(倪順田)

『少華山』のつづき。少華山を下つた殷、倪の二人は、池水驛まで来て別れる。ここに来るまでに流石の倪も口説き落されて夫婦約束をしてゐるのである。倪は殷を旅店の女主人に托し、自分は試験を受けに行く。

送銀燈

小生(張子顯) 花旦(桂娟)

張子顯が試験に行く途中、盜賊につかまる。盜賊の母が出て来て娘の婿になれといふ。承知せぬ。夜美人が燈を持つて来る。張の心動き、結婚を求めてゐるところへ盜賊の母が来る。そして訂婚するといふ筋。

賣絨花

三不願意、絨花計

花旦(崔の次妹) 丑(崔生) 小生(鄧文煥)

良郷縣の生員鄧文煥と、同邑の崔監生の長妹とは許嫁の間だつたが、崔は鄧の家が貧乏になつたのでその約束を破らうとする。文煥は之を縣に訴へる。崔は長妹を外に逃がし千二百兩の賄賂を縣令に贈る。縣令は知らぬ顔して之を受けて置き、崔の妹を呼び出す。崔は次妹を出し、何でもいから『不願意』と云へといひつける。次妹は承知して法廷に出て見たが、文煥の男振りにほれ込み『不願意』を『極願意』に代へて了つた。縣令は鄧を自分の養子とし、賄賂の千二百兩を結婚費にせよと申渡す。

明月珠 花園贈珠

從兄妹同士の想ひ合つた仲、男が試験を受けに行く前夜、花園に會つて明月珠を贈るといふお定まりの筋。

打麵缸

花旦(周蠟梅) 丑(知縣)

崑劇『麵缸』に出づ。清の唐雲英に『麵缸笑』あり。妓女周蠟梅が縣衙に夫を世話して貰ひたいと願ひ出る。知縣は自分で欲しいがさうも出来ないで小使の張才の妻にする。さうして置いて張に仕事をつけて山東に出してやる。晩に自分が忍んで行かうといふ考、思は同じ書吏の王先生、縣副周四老爺。先づ王が行つてゐると、四老爺が来る。台所へ隠す。又知縣が来る。今度は麵缸の中に隠す。こんどはほんたうの夫である張が歸つて来て、三人共たうとう見附かつて罰金二百圓を取られる。

雙沙河

小生(高能) 小生(楊仙同) 花旦(玉寶) 花旦(玉珍)

高能、楊仙同といふ二人の少年將軍が、番營と戦つて玉寶、玉珍といふ二人の美人と合戦し、彼此傾慕、一對づつ一緒になつて番營に行き、兩美人の駙馬張天龍を殺す。

銷雲囊

花旦(梅花娘)

女俠盜梅花娘は、朱家の娘が無頼漢花光訛詐に強迫結婚されやうとしてゐることを聞き、夜忍んで行つてその母子に説き、自分が代りになつて花の家を嫁し、夜中に花を酔拂はせて置いて自分は遁れ、朱母子を安全なところに移して救ふといふ筋。

小 上 攻 祿敬榮歸

花旦(蕭素貞) 丑(劉祿敬)

劉祿敬が試験を受けに行つて久しく歸つて來ない。妻の蕭素貞は賃仕事をしながら何時までも待つてゐる。祿敬がヤツトある知縣の口があつて歸つて來て、先祖の墓所で一人の女に會ふ。それが妻の素貞だと分る。悲喜交々集るといふお定まり文句。

新 安 驛 女強盜、辛安驛

花旦(女強盜) 小生(張桂英)

『文武香珠』といふに脱胎してゐる。女形として前清時代獨歩といはれた十三旦、事侯俊山のために、その保護者である前清某大官が書き卸したものださうだ。女盜張桂英はその内縁の夫龍官寶の後を逐うて、男装して新安驛のある宿に泊る。この宿は母子二人でしびれ薬を入れた酒をのませて、旅人の金をとるところ。その娘が男装して強盜となり、今し張桂英を殺しに來て見ると、餘り綺麗な男なので參つて了ひ、自分の夫にしようとする。張も仕方がないから承諾する。愈々御床入りとなつて女だといふことが分る。女形が鬚をつけて出るのが面白いといふので流行つた。

遣 翠 花 翠香寄柬

小生(相公) 花旦(翠香)

西廂記からでも脱胎した芝居らしい。あるお嬢さんと腰元の翠香といふのが、一人の若旦那を見染めて、翠香に艶書を持たせてやり、翠花を贈る。而も先づ指を染めたのは翠香だ。其の晩、お嬢さんと若旦那が喋喋喃喃のところを母親に見附かるが、母親も出來たことは已むを得ぬと許す。併し勉強して試験に通つた後でなければといふので、白金二錠を贈つて試験を受けにやる。

陰 陽 河 賞中秋、地府尋妻、西川奇聞

花旦(李桂蓮) 老生(張茂深)

山西の商人張茂深が中秋の夜、月下で妻と交歡し、月宮の怒に觸れ、妻の桂蓮は三月間失魂した。張が四川に商賣に行つて陽界と地獄の境に來て見ると、妻が河邊で水をくんでゐるのに遭ふ。店の主人に聞くと、鬼頭の倪木といふのが桂蓮を妻にしてゐるといふ。そこで倪の家に行つて夫婦面會をする。そこへ倪が歸つて來たので桂蓮は兄だといつはる。百日後桂蓮は蘇つて又張茂深と夫婦になる。上海で大流行の芝居だが北京では禁止されてゐる。

富 春 樓 縫搭膊

花旦(陳三兩) 小生(陳魁)

郟城の妓女陳三兩はもと役人の娘で、陳魁といふ篤實な客と嚙臂の盟があつた。一日魁に勧めて三百兩の金を貸し、商

賣をしてまうけた後落籍して呉れと頼む。魁は之を容れ喜び勇んで出立する。

シユアン 雙 搖 會 二美奪夫、搖會

花旦(妾) 彩旦(本妻) 小生(亭主李某)

或る處に李某なる教師が居つた。彼には本妻の外に一人の妾が有つた。妾は彼の留守には何時も本妻から虐められ抜いてゐた。或る日李某が外から歸つて来てすぐ妾の部屋に這入り込んだので、妾は李某に向つて常に本妻から虐められることを告げたのである。すると折悪く戸の外で本妻が立ち聴きしてゐたので耐らない、本妻は嗚り出し妾と立廻りを始める。それを聴いて近所の者が駆付けて仲裁に入り、一ヶ月を上下に分けて半月づつ亭主を占領することを提議した。二人は直に賛成したが各々上半月を取りたがつて相争ふので骰子を振つて決める事となり、本妻から振り始めると十八で妾の勝となる。

シイ 戲 迷 傳

此の劇は上海の役者の呂月樵が編演し始めたのださうで、諸名優特長の腔調を真似る芝居。ある處に一人の戲迷(芝居狂)が居つて暇に乗じ莊の前後をぶらつき乍らいろいろの劇を唱ふといふのである。

テイ 頂 花 傳 怕老婆

支那流の嬉天下の情節を演ぜるものである。王定保と云ふ儒者がゐた。大變嫌を懼れてゐた。或る時周子勤と云ふ同學の友が途中で王に邂逅、大比の年だと云つて王に上京を勧めた。王は妻の意見を聞くと云つて周と家に戻つた。すると王は頭の上に太い花煉瓦を戴き部屋の前に跪いて妻に上京することを願つた。妻は承知しなかつた。王は無理に願つた。妻は腹を立てて王の衣服を脱ぎ、笞で打つた。子勤は慰めてやつた。上京のことを言出すや、また王の妻に喰附かれた。子勤は憤つて王と相談し、彼女を武力で誡め、遂に悔悟させると云ふ筋。

ダテ 打 槓 子 黒松林

張三と云ふ博徒が居た。祖先の遺産を蕩盡したが尙ほ足らずして時時母舅の家借りに行つた。そこで母舅は厄介物と思つて彼に打槓子と云ふ商賣を教へた。張は母舅の教へた通りに木棍を持ち夜中に黒い松林に隠れ、通行人を待伏せ打槓子の方法を試して其の財物を掠奪しようとして居た。そこへ中年の一婦人がやつて来た。張は飛出して婦人を遮り、其の財物を掠めたばかりか、その衣褲をも脱がうとした。その中に張の木棍は婦人の手に入り、張の方法で張を散散に打毆り自分の所持品を取り戻した上に張の衣袴も素ツ裸に脱ぎ取つた。

ラオ 老 黃 請 醫

老黄といふ男の經營してゐる宿屋へ、男女二人の客が泊つたが、夜中に男の方が急病を起す。老黄は村の醫者劉高手を呼んで来て療治させる。藪醫者を形容して遺撼なし。

イモ 烟 鬼 嘆

鴉片の害を亡者が唱ふといふ筋で、『黒籍冤魂』の先驅をなすもの、上海の俳優、夏月珊の作と傳ふ。

賣 伴 伴

花旦(王氏) 丑(魏虎)

魏虎といふ犯人を一人の獄卒が護送して行く途中、道傍で婦人が露店を張つて食物を賣つてゐるのを見て、魏虎が取つて食ふ。三人が冗談をいひ合ふといふ他愛もないもの、吹腔。

二 姐 逛 廟

彩旦(劉二姐)

劉二姐が廟に遊びに行つて、鄰り近所の誰彼れを捉まへてフザケ散らす道化芝居。何の意味もない。

元 宵 謎

荀慧生(白牡丹) 民國十五年初演。未婚の夫婦が元宵節に燈を觀に行き、種種の冤枉を受け、種種の笑話をのこすが最後に目出度し目出度しになるといふ筋。

紡 棉 花

花旦(王氏)

王氏の夫が商賣に出て三年も歸らない。退屈なので家で棉花を紡ぎながら流行歌を唱つてゐると、夫が歸つて來てヂツと聞く。女の心をためして見ようと金を投げ入れる。女が門を開けて見ると夫だつた。痴話口説よろしくあつて幕。

探 親 相 罵 探親家、探親

花旦(胡媽媽) 彩旦(親娘)

田舎のおかみさんが、娘を町に嫁にやる。どんな風かと思つて見ると娘が泣いてゐる。婿の母はハイカラで、嫁が如何に氣が利かないかといふことを述べ立てる。ハイカラ女と田舎女の口争ひ。昔劉趕三といふ道化の達人は、ほんとの驢に乗つて舞臺に出たさうだ。吹腔。

小 放 牛 杏花村

花旦(女郎) 丑(牧童)

清の夏惺齋の作に『杏花村傳奇』あり。牧童が郊外で放牛してゐると、一人の田舎娘が通りかかつて、杏花村へ行く道はどうかと聞く。牧童、道は教へてやるがその代り歌を唱つて行けとせがむ。娘はやむを得ず歌ふ。牧童も歌ふ。春郊日永く、村童幼女の舞。吹腔の靜かな調子。北京では九陣風と王長林のが有名だが、私の見たものでは白牡丹が第一だつた。

丑 表 功

花旦(萬人迷) 丑(保兒)

ある女郎屋のやりて、婆萬人迷の下男保兒は、近頃とんといふことを聴かないので、解雇しようとしたら、下男はおれには十大汗馬の功勞があるといつて聴かない。そこへ下男の紹介者たる教書先生が來て調停するといふ筋。

打花鼓 鳳陽花鼓

花旦(打鼓の妻) 丑(打鼓者) 小生(公子)

崑曲『花鼓』に出づ。公子某、途で鳳陽人夫婦の打鼓者に會ひ、その婦が一寸ふめるので連れて歸り、百方調戲する。踊り且つ歌ひ、醜態百出の滑稽芝居。『吹腔』といつて崑曲に似た調子。

拾黃金 化子拾金、拾金、財迷傳

丑(范陶)

崑曲『羅夢』から思ひついた劇で、丑の名人故李百歳の作である。范陶といふ乞食が、雪の日街で金を拾ひ、喜んだ揚句、狂になり、メチャクチャなことを口走る。そして色んな芝居の唱を歌ふ。戲迷傳の先驅である。

十八扯 四十八扯、小磨房、兄弟串戲

丑(孔懷) 花旦(孔秀英)

崑曲『磨房』『串戲』。孔懷の兄の妻は、夫の留守中虐待を受け、毎日磨房で仕事をさせられる。懷は氣の毒に思つて嫂を助ける。一日妹の秀英と二人で、磨房で色んな芝居の眞似をして遊ぶ。色んな芝居の聲色を使ふので、一寸『戲迷傳』『拾金』的のもの。

文明人

賈人俊は留學生出身で、文明人を氣取つてゐる男である。彼は母が文字を知らないといふので、六十にもなる彼女を學校に入れる。母は仕方がなく入つたけれど、何が何やら分らぬので校長は送り返す。賈は自由戀愛を高唱して花柳界に入りびたり、藝妓屋で自由自立の義を演説する。妻聰娘がお母さんが病氣だからといつて呼びに行くと、却つて之を辱かしめる。妻は怒つて父薛可權に訴へる。賈の徒弟王以智が一計を案じ、聰娘の妹を男装させ、聰娘と散歩させ、わざとそれを賈に見せる。賈は怒つて薛可權に訴へる。聰娘は賈の自由の説を利用して反駁する。皆であの男子は實は妹だと告げる。それで夫婦仲がなほる。

十姊妹

女學生趙佩弦等は自ら新中國の女傑と稱し、無夫主義を主張して同志十人を得た。併し皆附焼刃で結婚したいのだ。褚士俊といふ金持の息子が、求婚の廣告を新聞に出すと、忽ち艷書が山の様に集まる。どれにしてよいか分らぬので新聞社の主筆をやつてゐる友人の楊玉如と相談し、彩票を賣出して中つたものを嫁にすることに成る。十人の無夫主義者は皆潜かに彩票を買つてゐるのだから面白い。ところが開票となつて見ると十姉妹は誰も中らない。怒つて新聞社を打こはす。教育會長の仲裁で十姉妹が同時に褚士俊と結婚する。

錯中錯 難姻緣

丑(張和尚) 旦(錢素娟) 小生(閔子千) 丑(弟)

張和尚といふものがあつた。御定まり通りの放蕩のなれの果てが雜貨のかつき賣りとなつてゐる。御得意の中に錢員外の娘素娟といふのがある。張はそれに惚れ込んで何時もからかつてゐた。一日、素娟は一人の美少年を見染める。閔子千

といふ少年で、二人情意投合してゐるところを張和尚に見附けられる。張は大いに嫉妬するが、思ひ返して関に、此事を成就させてやるから金を出せといふ。関は十兩渡す。張は金さへ入れば用はないと知らぬ顔をしてゐる。一方素娟は戀煩らひになる。母が可哀想に思つて自分の弟に、関に會つて話を纏めて貰ふ。弟は酒のみで関との話は定めたが、復命も何もしない。素娟は此事はとも出来ないと言つて首を吊つて死んで了ふ。

艾子 孝子 尋親奇遇

小生(艾子誠) 老生(周仁全) 旦(周素秋) 外(艾文仲)

直隸寧河縣の艾文仲は、北村の陳百萬と喧嘩して之を殺したので、罪を恐れて逐電した。その息子の子誠は母に事へて孝であつたが、母も亦病氣で死んでしまつたので、十八の時故郷を出て父を尋ね、二十一の歳、奉天馬家山まで来たとき強盜に遇ひ金も何も取られてしまつた。彼は自殺しようとして森の中に飛び込んだ拍子に、一人の少女と衝突し、その少女の連れのために捕へられ打つ蹴るの狼藉に會つた。少女は周素秋といひ、周仁全といふ富豪の娘で、もと寧河縣の人であるが、今日娘と同郷の王といふ大工を連れて遊びに来てゐたのだ。子誠が名乗るのを聴いて、王は忽ち子誠を懐いて哭する。彼こそ父文仲であつたのだ。周は子誠を娘婿にし、目出度く大團圓となる。

寶鐵劍 葡萄會

丑(公子) 旦(その妹) 小生(公子の仇人)

或公子が美人をさらつて来て、無理強ひに結婚式を挙げようとしたとき、伯父の病氣でその方へ行つてしまふ。美人は公子の妹のところへ預けられる。この美人實は公子の仇人で、男である。妹とこの男とが結婚して了ふ。公子が歸つて來

ると、男が之を殺し、妹を連れて逃げる。

斗牛宮

小生(趙月仙) 旦(青水花)

書生趙月仙なる者、慈善の行が多かつた。玉皇は東方朔をして畫軸を持たしめ、月仙に遇うて之を贈る。この畫を書齋にかけて『青水花』と三度呼ぶと、中から玉皇の娘青水花が出て來て月仙の妻となる。極めてツマラヌ筋であるが、畫の中から美人が出て來るところとか、舞臺に燈を多く使つたりするので仲仲受けたさうである。いはゆる燈彩戲の一。仲秋節の時演することがある。

變羊計

丑(巫女) 花旦(細君)

或る一組の夫婦が住んで居たが、其の間に子供がないので夫は妾を納れようとする。然し細君が之に大反對で終日夫の行動を監視し、夜になると夫の足を縛つて其の繩の端を自分で握つて休み、夫はベッドの下に寝させるのを常としてゐる。夫は妻の虐待に耐へ兼ねて此の事を友人に相談する。そこで友人は一案を考へ出し、或る夜細君の寢静つた時を見すまして足の繩を釋き其の代りに一疋の羊の足を縛つて置く。細君が氣が付いて見ると夫が居ないので、つきり夫が羊になつてしまつたものと思ひ込み、仰天して巫女を呼んで見て貰ふ。巫女は豫ねてしめし合はせてゐるので、祖先の靈魂が乗り移つたやうな風をして細君の夫虐待を詰ぢり、妾を納れなければ子供が出來ない。子供が出來なければ家は斷絶する。お前は此家の血統を絶えさせる不孝者だと罵る。そこで細君は改心して妾を納れることを承諾し、羊をもとの夫に返して

貰ひたいと願ふので、遂に難なく妾を納れるといふ喜劇である。

荷珠 配

花旦(荷珠)

荷珠といふ下女が、自分の主人金鳳といふ令嬢を装うて、金鳳の許嫁となつてゐる青年と結婚する。然し彼女は元來が下女なので、舉動が輕佻であるため、終にその偽りであることが露はれ、青年は改めて金鳳と結婚し、荷珠はその妾になるといふ筋。

廉 錦 楓

青衣(廉錦楓) 老旦(梁氏) 老生(林之洋) 小生(唐以亭) 老生(多九公) 丑(吳士公)

(第一場) 林之洋は嶺南で貿易を業として居る。唐以亭、多九公と一緒に商賣に赴き、丁度、君子國まで来たので連れ立つてそこに上陸をする。

(第二場) 廉錦楓の父廉禮は早く此世を去つて母の梁氏が残つて居る。錦楓は母によく事へ孝行娘として評判が高い。時に、母は氣鬱の病を得て薬を飲んでもすぐ吐き出したが、唯、海參だけは好物で食べる。錦楓は今日も海に入つて海參を取りに行かなくてはならないが、丁度、弟の學校に行く時間なので弟を出してやつてから海へ行く事にする。

(第三場) 梁氏は娘を呼んで、今日は胸の具合が悪いから、海參を取つて来てくれと吩咐ける。

(第四場) 漁翁吳士公夫婦が船に乗つて来る。彼等は青邱國の人間であるが、君子國の人間が魚を捕るのに網を用ゐないのをよい事にし、いつも君子國の海に入つて魚を取る。今日もこれから出掛ける處である。

(第五場) 君子國の町である。林、唐、多の三人が、方方見廻つて居る。吳服屋へ小役人が布を買ひに来る。賣る方は價を安くいひ、買ふ方ではそれを高く買ふ。まるで商賣の原則に外れた事をやつて居る。林等は大いに感服して船に乗り、嶺南を指して歸る。

(第六場) 廉錦楓は海の中に跳び込んで海參を探す。

(第七場) 漁翁吳士公夫婦が、網を投げて魚をとつて居ると、廉錦楓がその網に掛る。吳夫婦はこのやうな少女を見ると忽ち悪心を起し、彼女を捕へて賣り飛ばさうとする。そこへ丁度、林之洋等三人の船が来て、廉錦楓の泣いて居るのを見て可愛想に思ひ、漁翁に放してやれといふが聽かない。三人は怒つて漁翁夫婦を追ひ拂つて錦楓を助け出す。錦楓は三人に助命の恩を謝し、そしてまた海に入つて海參を取る。三人は悪人がまた来てはいけないと見張をする。

(第八場) 錦楓は海中で大きな貝を見、その中に屹度珠があるだらうから、それを取つて三人に贈らうと思ふ。

(第九場) 船の上では未だ三人が錦楓の事を氣遣つて居る。そして水夫に吩咐けて海中に入らせ、錦楓の行方を探させる。

(第十場) 錦楓と貝との戦ひ。

(第十一場) 水夫は海から上つて来て、錦楓が貝を刺殺したから、もう上つて来るだらうといふ。果して錦楓は間もなく上つて来て、貝の中から取つた大きな珠を三人の恩人に贈る。

本劇は有名な小説『鏡花縁』を材料にしたもの。同書は清の李汝珍の作で、婦人問題を論じた小説である。

連 陞 三 級 連陞店

小生(王明芳) 丑(店の主人)

王明芳といふ書生が試験を受けに行つた歸り途、連陞店といふ宿屋に宿る。宿の主人は小人俗物の標本のやうな男で、王の扮装の汚ないのを見て、この貧乏書生がといふので最下等の室をあてがひ、夜王が書物を讀んでゐると、蠟燭代が費へるといつて火を消しに来て、序でに書物を蹴飛ばしたりする。ところが翌日になつて王明芳が進士の試験に及第したといふ知らせが來ると、主人の待遇はガラリとかはり、氣味の悪いやうに御機嫌を取る。さうすると追つかけて王が縣知事に任命されたといふ報知が來る。が王は金がないので赴任が出來ない。すると主人は、なにその位の金は私が用立てますといふ氣前のよさ。王は主人から借りた金で意氣揚揚と赴任する。人情の輕薄なのを諷した劇である。

定計化縁

丑(道士) 丑(和尚)

ある道士と和尚とが、何か面白いことはあるまいか、そして金にでもなれば益とよいといふので相談の結果、二人で鉢の坊主に化け、ある家に出掛けて金を騙し取る。これといふ情節もなく、ただ二人の道化の滑稽まじりのせりふを聴くべきもの。

萬花船

花旦(小蓮) 小生(甘習文) 丑(蔡炳)

張濟は官を罷めて妻殷氏と共に杭州に老を養つてゐる。或日娘の小蓮と共に船に乗つて西湖に遊んでゐると、これも同じく遊んでゐた甘習文といふ書生に出會ふ。御定まり通り兩人が惚れ合つて小蓮は金釵を投げ與へ、今夜三更船に來いと告げる。甘の友人蔡炳は甘からその事を知り、先驅けして二更の頃忍んで行くと、船夫に見出され湖の中に投げ込まれる。

蔡はそのまゝ船に歸らずに逃げて了ふ。甘は三更の頃行かうとして見ると張の船はもうゐない。彼は然し小蓮を忘れ兼ね杭州に行つて口入れ婆のところに行き、女装して張家に入り込み、終に小蓮と通ずる。然し事露はれて彼は張濟から放逐される。

五雷報

老旦(姚氏) 彩旦(長子の妻) 淨(長子) 青衣(三子の妻李氏)

江蘇揚州府興化縣の周家堡に、錢家の三兄弟があつた。皆すでに妻があり、上には老母姚氏が一人あるきりだつた。ところが第三子の妻李氏を除いては、揃ひも揃つた親不孝者ばかりで、姚氏の涙の乾く暇もなかつた。ある年の大晦日、姚氏は飢餓にたへかねて長子の妻に食を乞ふと、彼女は喰へ残りのまづいものを喰はせる。次子夫婦はテンデ寄せつけない。三子はばくちに行つて留守で、李氏が姑を呼んで食事をさせてゐると、三子が歸つて來て妻を蹴殺す。姚氏はそれを見て自殺する。一天俄かにかき曇り、雷が三子と二人の嫁と都合五人を取り殺してしまつた。

三世修

青衣(黃桂香) 老生(黃天路) 彩旦(馬氏) 丑(侯七)

一人の老道士があつた。七歳の時から精進して修行したが、黃員外(名は天路)の布施の誠に感じ、黃家に轉胎してその娘になつた。名は桂香。第一世が道士、第二世が桂香といふわけになる。桂香が六歳の時母が死に、繼母馬氏がその子油瓶兒侯七を連れ兒として入つて來る。御定まり通りのまゝ見いぢめ。七歳の時、父が無實の罪に陥されると、桂香代つて刑に服し、死罪となり、第三世は男に轉世し、つひに得道する。本劇は桂香時代、繼母及び侯七の虐待を受けるくだり

である。

珍チン 珠ジュ 衫シャン 中秋賞月

小生(陳大郎) 花旦(周蘭英) 彩旦(薛媽媽)

陳大郎といふ二十四歳の商人が、襄陽で周蘭英といふ女を見染める。蘭英は富商蔣興哥の妻であるが、夫は廣東に商賣に行つて留守の間である。大郎は宿屋の女主人薛媽媽といふに相談する。この女が悪い奴で、今晚恰度仲秋だから自分が蘭を誘うて酒を飲ませる。お前は隠れてゐて彼女が酔ひつづれるのを待てといふ。計の如く行つたアトで、二人共謀して蘭英の珍珠をちりばめた衫子(はだぎ)を盗む。未完の劇。

三サン 字ツツ 經チン

老生(羅英) 淨(溫籍) 丑(千總官)

監淮の騎都尉溫籍は、一日節度使羅兆威からの公文を受取つた。ところが彼は目に一丁字のない無學男として、公文に何が書いてあるか分らない。そこで部下の千總に命じて字の讀める男を探して來させる。ここに落第の秀才羅英といふものがあつた。千總官は彼が字が讀めることを知つて連れて來る。溫は字が讀めるやうなふりをして羅英の學問をたぬす。羅英は溫を馬鹿にして三字經の講釋を長長とやる。最後に公文を讀んで呉れといふので讀んで見ると、落第の學子羅英を逮捕して護送せよといふ文面。羅英は吃驚したがいい加減に言ひくるめて禍を免かれる。

瞎シヤ 子ツ 逛ワン 燈トン

丑(賣卜者) 丑(和尙)

一人の盲目の賣卜者と、その友人であるピツコの和尙さんとが、正月十五日の燈籠(燈籠の節句ともいふべく、各戸燈籠をかけ連ね美觀を極む。北京の風俗)に燈籠を觀に行き、二人で滑稽のありつたけをつくす。

碧ビ 玉ユ 簪ツァン

青衣(張玉貞) 小生(趙啓賢) 老生(張瑞華) 丑(陸少莊) 花旦(小惠) 彩旦(顧媒婆)

秀才趙啓賢は淮陽の人、家には母一人あるきり、同郷の退職吏部尙書張瑞華は亡父の親友であるが、その誕生日に啓賢が行くと、尙書は啓賢の英俊を愛してその娘玉貞を妻とすることを許す。尙書の甥の陸少莊は早くから玉貞に思召しがあつたが、ここに至つて媒婆顧氏としめし合せて悪計をめぐらす。顧氏は張尙書の家によく出入りするのであるが、一日玉貞のところから碧玉の簪を借り、陸宛の情書を偽造して碧玉簪をその中に入れ、趙と玉貞との結婚の夜、寢室の中に入れて置いた。趙はこの計に中り暗に玉貞を疑つて一緒に寝ない。趙の母は玉貞を可愛がるが、趙は依然冷かである。その時偶々張尙書夫人の誕生日となつたが、趙は何思つたかしきりに玉貞に歸宅せよといふ。それは偽の情書の中に、『母の誕生日の時に會はう』といふ一句があつたからである。張尙書は趙の家に来て趙から一切をきき、娘を痛打するが、玉貞の婢小惠は證據物件として出された碧玉簪のことから考へ出し、これは顧媒婆の悪計だらうといふ。そこで顧氏を尋問すると委細白狀する。趙は耻づかしさの餘り直ちに都に上り試験を受け狀元で歸つたのはよいが、玉貞の怒りはとけない。終に名義上の夫婦となり、小惠が妾となる。陸少莊は氣狂ひになつて死んで了ふ。

玉ユ 獅シ 墜チ 小天台

且(吳幻娘) 小生(錢琮) 且(朱秀英) 丑(鄧長)

江蘇吳縣の秀才錢琮が試験のため上京しようとしたとき、妻朱秀英は家傳の玉獅墜を與へ、老僕錢安を隨行させた。途中、山東黑狼山で賊の頭楊春に捕へられたとき、山下の小天臺の住人吳人傑の娘幻娘に助けられ、人傑のため強迫的に幻娘と結婚させられる。その時玉獅墜を結納とする。結婚後彼は京師に赴く。ところが蘇州人鄧長といふ商人が恰度小天臺に商賣に来てゐて、その口から錢琮重婚のことが秀英の耳に入る。秀英は夫に詰問すべく長と共に上京の途中、又もや楊春のために捕へられ、賊の首領陳達に獻ぜられ、陳は彼女を妾としようとしたがきかない。さて幻娘は父の外出した後、病氣で寝てゐるところを捕へられて山に上り、二賊を殺して秀英を助け、父人傑とはかつて秀英を蘇州に送り届ける。錢琮は及第して歸宅する。秀英は幻娘としめし合せ、幻娘を狭い室に押し込めて置いて夫に玉獅墜を求め、錢は大いに苦しむ。すると秀英は玉獅墜を出し、幻娘はここへ来て前妻のあることを知り、玉獅墜を投げつけて歸つたといふ。錢はそれから下婢から幻娘が實は監禁されてゐることを知り、尋ねて行くと幻娘から大いに恨まれる。ここ暫らくの間、錢は二人の女に翻弄されるが、結局戯れに過ぎないので、正式に結婚禮を行つて二人の妻仲よく暮した。(程硯秋初演)

瑤池會	369
陽平關	142
雍涼關	153
余千救主	201
楊太真外傳	202
羊肚湯	107
游武廟	286
游園驚夢	272
幽界關	108
游六殿	215
游龍戲鳳	307
游西湖	280
有勇無謀	137

Z

斬馬謖	156
斬妲己	74
斬顏良	121
斬魏虎	185
斬壽廷	231

斬韓信	96
斬經堂	98
斬黃袍	230
斬浪子	384
斬蔡陽	123
斬子	235
斬秦洪	306
斬貂蟬	119
斬鄭文	157
斬鄭恩	230
斬寶娥	107
斬楊波	311
斬雄信	173
坐樓殺惜	251
善寶庄	92
舌戰羣儒	128
絕龍嶺	74
贈別挑袍	122
贈袍賜馬	121
隋唐演義	167,169

捉拿費德恭	330
捉拿蔡天化	338
捉拿青面虎	385
捉放	111
綢包勉	242
捉放曹	111
捉曹放操	111
草橋關	101
孫龐鬪智	87
雙鈴記	354
雙龍會	233
蘇龍嶺	225
蘇三起解	292
雙嶺山	280
草船借箭	129
掃雪打碗	376
走雪山	318
雙沙河	393
雙獅圖	190
掃秦	267
搜詔逼宮	139
掃松下書	105
雙珠鳳	360
雙帶箭	172
雙釘計	283
雙盜印	338
曾頭市	255
雙投唐	172
雙搖會	396
雙陽產子	240
醉打山門	250
醉打曹豹	115
水淹七軍	143
帥府招親	312
翠屏山	254
翠花宮	175
水滸傳	250

水滸後傳	260
水鏡莊	125
醉寫	176
吹簫乞食	82
醉酒	202
崇禎歸天	303

T

替夫報仇	171
黛玉焚稿	342
黛玉葬花	340
太白醉寫	176
太白醉酒	176
大破仙人擔	276
大破誅仙陣	75
太平橋	222
對金雀	164
大興梁山	257
太君辭朝	240
大男	346
大戰變兵	159
太真外傳	202
對刀步戰	300
卓文君當鐵鏡	107
托兆碰碑	233
托兆小顯	178
探母回令	236
嘆五更	127
端午門	176
探陰山	247
貪歡報	257
探寒窩	181
單騎救主	127
嘆皇靈	310
探親	399
探親家	399
探親相罵	399

探莊	255
單刀會	139
探窩	181
程嬰捨子	79
定軍山	141
定計化緣	406
丁甲山	258
鄭恩傲親	229
鼎盛春秋	80
鄭州廟	332
摘纓會	78
摘星樓	73
鐵冠圖	300
鐵公雞	343
鐵弓緣	389
天堂州	170
天河配	363
天門走雪	318
天女散花	363
天寶圖	293
天雷報	373
天齊廟	243
天水關	154
鐵筆血	356
鐵蓮花	376
鐵籠山	159
屠趙仇	79
倒廳門	217
鬧學	272
東宮掃雪	224
盜御馬	333
盜玉馬	247
討魚稅	260
斗牛宮	403
刀劈三關	221
黨人碑	261
杜十娘	298

當鋪賣馬	170
東漢演義	98
桃花扇	304
董家山	219
討荊州	124
盜金牌	326
擄抗開評	69
盜魂鈴	187
鬧昆陽	100
蕩寇志	259
鬧江州	253
得意緣	282
盜靈芝	248
擒諒	286
盜仙草	248
鄧芝赴油鍋	152
東晉演義	162
東周列國志	75,77
攔曹	130
盜宗卷	96
鬧天宮	185
擒幽王	75

U

烏盆計	241
宇宙峯	93
雲台觀	100
烏龍院	251

W

淮安府	338
-----	-----

Y

夜奔	251
藥茶計	384
夜戰馬超	138
也是齋	384

避元戎	175
戰白龍	231
戰樊城	80
戰蒲關	101
戰北原	157
戰渭南	136
洗耳記	69
戰城都	133
千金一笑	340
千日醉	352
千里尋兄	123
千里單騎	123
專諸別母	83
薦諸葛	126
戰太平	285
剪刀血	356
說岳全傳	262
節義廉明	314
薛剛反朝	190
雪盃圓	297
弄隱娘	207
薛瓊英	320
截江奪斗	135
薛敏頒兵	190
薛禮嘆月	182
薛禮救駕	182
雪夜訪普	231
說唐羅通掃北全傳	179
沙陀國	223
射紅燈	171
借茶活捉	252
借趙雲	113
借人頭	228
借東風	130
沙橋餞別	187
謝小娥	209
謝小娥傳	209

司馬遷宮	159
子母砲	224
思凡	365
七擒孟獲	152
七國志	86
七俠五義	241
七星廟	232
七星燈	158
視坎間路	105
刺巴杰	201
四平山	168
四十八扯	406
紫霞宮	383
紫荊樹	388
四杰村	201
施公案	328
雌黃陣	248
新安驛	394
進蠻詩	176
新茶花	353
清朝八齣	382
進姐已	70
秦英釣魚	175
進宮	310
審李七	273
秦良玉	302
審刺客	166
審七長亭	273
神州擂台	258
神亭嶺	115
審頭刺湯	296
秦淮河	257
晉陽宮	168
刺王僚	83
四郎探母	236
四進士	314
獅子樓	253

子胥投吳	82
泗州城	69
柴桑口	135
失街亭	155
失印救火	305
離離鞭	179
小五義	248
鎖五龍	173
小放牛	399
小上坎	394
蔣幹中計	129
諸葛亮招親	126
諸葛借箭	129
少華山	391
小顯	178
鍾施嫁妹	217
湘江會	87
昭君出塞	103
鷓鴣山	77
湘子度叔	218
招親說破	312
初出祁山	154
將相和	85
余塘關	232
鎖雲臺	393
鎖烏龍	173
逍遙津	139
朱買臣休妻	103
取城都	138
繡襦記	216
收關勝	257
取榮陽	94
取金陵	286
祝家莊	255
秋胡戲妻	90
祝英台	90
收姜維	154

守宮殺監	301
秦阿氏	354
春秋配	391
秦香閣學	272
取南郡	131
取雒城	136
取洛陽	99
珠簾寨	223
娶李逵	257
取三郡	154
硃砂痣	278
朱仙鎮	265
取帥印	174
取東川	141
走麥城	144
雙斷橋	249
桑園會	90
桑園寄子	162
搜府盤關	88
曹福登仙	318
曹娥投江	109
送銀燈	392
雙合印	309
蘇護進姐妃	70
搜盃代戮	295
雙怕老婆	387
雙包案	244
草上坡	159
雙冠譜	106
雙冠譜傳奇	105
雙觀星	224
楚漢爭	94
送花樓會	360
雙蝴蝶	90
搜孤救孤	79
劍美案	246
捉拿張秉仁	312

藍關雪	218
爛柯山	103
亂石山	284
羅成叫關	178
羅成托夢	178
羅四虎	331
羅通掃北	179
列國志	80
連營寨	150
連環計	113
蓮花湖	329
連環套	333
蓮花塘	384
廉錦風	404
連陞三級	405
連陞店	405
列女傳	90
烈女傳	376
狸貓換太子	241
梨花斬子	189
力斬五將	153
李香君	304
離魂記	208
林冲夜奔	251
臨潼山	169
臨江驛	262
臨江驛瀟湘秋雨	262
臨江會	128
林四娘	323
李陵碑	233
潞安州	263
蘆中人	82
老五殉情記	359
牢獄鴛鴦	382
盧十回	256
盧花河	189
蘆花蕩	134

老黃請醫	397
六部大審	166
鹿台賜宴	74
六月雪	107
六出祁山	158
論英雄	120
老西廝院	386
老将得勝	141
魯肅求計	139
綠牡丹	191
綠珠	163
兩狼山	233
聊齋志異	344
兩將軍	138
龍馬姻緣	366
劉備哭靈	150
龍鳳配	132
龍鳳劍	73
龍鳳呈祥	283
龍女牧羊	212
劉關張	110
柳毅傳	212
劉基辭朝	286
劉高搶親	222
龍虎鬪	232
劉無雙傳	210
柳林池	246
柳林相會	297
劉倩女	287
劉秀走國	98

S

祭長江	151
採花趕府	165
蔡家莊	326
祭江	151
濟公傳	269

濟公活佛	269
蔡鳴鳳	382
彩樓配	180
崔子弑君	80
妻黨同惡報	370
殺狗勸妻	375
錯中錯	401
錯殺姦	383
山頂拜泉	159
三打陶三春	229
三堂會審	292
三不願意	392
三雅園	351
三擊掌	180
三疑計	319
三義絕交	328
珊瑚傳	345
三國志演義	110
三字經	408
三上殿	311
三讓徐州	114
三上轎	311
三娘教子	105
三十六友	170
山海關	315
三結義	110
三氣周瑜	134
三顧茅廬	127
山門	250
三門街	288
算糧登殿	184
三星歸位	238
酸棗嶺	201
三鎗擊走裴元慶	168
三矮奇聞	276
三世修	407
三藏取經	187

殺府逃國	80
詐壓城	137
殺子報	355
查頭關	108
殺妾犒軍	101
青梅煮酒	120
晴雯補裘	340
晴雯歸天	341
晴雯撕扇	340
精忠傳	266
精忠譜	300
青風寨	257
青風亭	373
倩女離魂	208
西河舞	218
西漢演義	94
清官冊	234
青樓夢	372
征西全傳	188
青石山	367
西施	84
生死板	279
請師斬妖	367
青霜劍	275
西廂記	214
請宋靈	268
征東全傳	180
青雲山	348
西游記	185
席棚會妻	370
接骨換筋	92
戰濮陽	114
戰長沙	132
戰潼台	222
戰土台	286
戰宛城	116
洗浮山	328

紅梅閣	280
光武興	99
蝴蝶盃	312
興趙滅屠	79
蝴蝶夢	89
巧拿智空	352
洪洞縣	292
講堂圖智	329
孝婦羹	345
光復南京	286
紅拂傳	203
鴻雁稍書	183
孝義節	151
虹霓關	171
高平關	228
宏碧綠	191
紅蓮宮	159
香妃恨	350
交印刺字	268
黃一刀	102
庚娘	346
古城會	123
古城聚義	123
古城相會	123
黃鶴樓	128
興漢圖	96
孝感天	77
扈家莊	255
狗吃人肉	379
紅蝴蝶	353
敲骨求金	92
哭長城	92
黑風帕	239
哭靈牌	150
黑驢告狀	245
黑松林	397
哭祖廟	160

黑水國	162
虹橋贈珠	69
孔明弔喪	135
孔明過江	128
孔明求壽	158
紅門寺	352
混元盒	298
滾鼓山	148
崑曲一捧雪	295
崑曲精忠譜	300
崑曲黨人碑	261
崑曲倒精忠	268
困曹府	227
滾釘板	279
混天球	164
紅鸞喜	271
虎牢關	112
行路哭靈	372
紅樓夢	339
興隆會	284
紅柳村	348
紅線傳	205
紅線盜盒	205
紅綃	207
洪秀全演義	343
胡妲罵閻	267
昊天關	261
洪洋洞	238
行善得子	278
孔雀屏	168
空城計	155
君臣樂	231
掘地見母	77
許田射鹿	117
杏元和蕃	213
杏花村	399
喬醋	164

教子	105
舉鼎觀畫	190
叫關	178
弓硯綠	349
九件衣	376
九更天	279
宮門帶	174
九龍盃	325
九龍山	265
九陽鐘	259
虬髯客傳	203

M

麻姑獻壽	364
滿床笏	203
餓頭庵	339
摩天嶺	181
明月珠	393
鳴鳳記	295
迷人館	327
湘池會	85
明末遺恨	301
木門道	156
木蘭從軍	173
目蓮救母	216
目蓮救母全傳	215
孟姜女	92
孟蘭會	270
孟良盜骨	238
孟津河	371
茂州廟	332
無愁天子	227
無雙	210
妙善出家	367

N

南曲荊釵記	274
-------	-----

南屏山	130
南天門	318
南陽關	167
寧武關	301
年羹堯	350
日遭三險	332
二度梅	213
二童觀星	224
二本麥城昇天	146
二本冀州城	137
二本雪盃圖	297
二氣周瑜	131
尼姑思凡	365
二喬	125
二進宮	310
二姐逛廟	398
能仁寺	348
女起解	292
入侯府	375

O

淤泥河	178
黃金台	88
黃金台傳奇	88
王允賜環	113
王佐斷臂	265
應天球	164

R

落花園	213
羅鍋子搶親	388
落馬湖	332
駱馬楊枝	221
落園	213
洛神	160
洛神賦	160
洛陽橋	319

一笑緣	344
一將難求	113
渭水河	73
以德報怨	379
喂藥	280

J

兒女英雄傳	348
慈孝圖	109
人不如狗	379
潯陽樓	253
辭楚歸魯	90
辭曹斬將	123
日月圖	271
徐母罵曹	125
嫦娥奔月	362
狀元譜	377
上元夫人	108
狀元印	285
常遇春救駕	284
讓城都	138
女媧宮	70
徐策跑城	190
除三害	164
徐錫麟	352
上天台	102
襄陽宴	125
女斬子	189
十道本	174
拾玉鐲	307
十八扯	400
拾金	400
十萬金	186
十二紅	387
拾黃金	400
十姊妹	400
壽山會	390

受聊台	149
-----	-----

K

花劫緣	323
花田錯	276
花筵賺	322
火焰山	187
過五關	123
火焚宗卷	96
海潮珠	80
界牌關	179
解寶收威	223
會稽城	219
回荊州	133
懷古回家	297
掛印封金	122
廻龍閣	185
介推逃隱	77
開山府	295
河間府	330
賈家樓	170
下河東	231
住期拷紅	214
假金牌	312
刮骨療毒	143
過江赴宴	128
下江南	307,343
花蝴蝶	247
霍小玉	211
霍小玉傳	211
花木蘭	173
佳夢蘭	74
甘鳳池	343
宦海潮	351
浣花溪	219
看蘇州人	300
漢獻讓位	149

韓琪殺廟	246
關公顯聖	146
關公訓子	139
關公訓弟	123
看香頭	385
漢宮秋	103
關王廟	291
完璧歸趙	85
甘露寺	132
趕三關	183
酣戰太史慈	115
流沙計	82
漢津口	127
漢書	97
監酒令	97
串珠記	382
漢陽院	127
割髮代首	116
買政訓子	339
火燒葫蘆谷	158
火燒連營	150
荷珠配	404
瞎子逛燈	408
家庭恩怨記	357
割瘤討封	227
滑油山	215
花雲帶箭	285
華容道	130
華容攔曹	130
慶安瀾	384
閨房樂	283
慶頂珠	260
慶賀黃馬褂	325
溪皇莊	326
瓊林宴	244
荊釵記	274
荊州失計	144

慶陽圖	220
桂陽城	131
景陽岡	252
賺文娟	281
猷地圖	135
乾坤帶	175
劍俠傳	207
劍峯山	327
乾隆巡幸江南記	343
檢柴	391
猷西川	135
血手印	378
遺翠花	395
奇冤報	241
貴妃醉酒	202
喜封侯	96
金馬門	177
金榜樂	299
琴挑	368
擒張任	136
金殿裝瘋	93
金雁橋	136
金鰲島	306
金雀記	164
金光陣	189
今古奇觀	89,270,298
金鎖記	107
金錢豹	188
金沙灘	233
金水橋	175
金山寺	249
寄子	162
鬼神庄	98
紀信替主	94
冀州城	137
奇雙會	374
吃人肉	101

G

賀后罵殿.....232
 垓下圍.....95
 艾孝子.....402
 岳家莊.....264
 樂毅伐齊.....88
 瓦口關.....140
 雁門關.....234,239
 畫春圖.....327
 月下斬貂.....119
 擊鼓罵曹.....120
 元宵謎.....398
 義僕記.....379
 戲牡丹.....363
 戲鳳.....307
 義旗令.....329
 戲迷傳.....396
 戲目蓮.....215
 戲叔.....252
 五台山.....237
 五代殘唐演義.....222
 拷打吉平.....121
 五毒傳.....298
 吳衍能.....228
 後風波亭.....267
 合鳳裙.....361
 五花洞.....276
 吳漢殺妻.....98
 五虎平西全傳.....240
 五人義.....300
 五雷報.....407
 五雷陣.....87
 後列國志.....87
 五郎出家.....233
 五龍祚.....225
 五藏山.....142

伍申會.....81
 蜈蚣嶺.....253
 群英會.....129
 羣臣宴.....120
 遇龍封官.....305
 遇專諸.....82
 虞小翠.....364
 魚腸劍.....82
 御碑亭.....299
 御果園.....174
 玉麒麟.....256
 玉堂春.....291,292
 玉門關.....97
 玉玲瓏.....262
 玉獅墜.....409
 玉搔頭傳奇.....287
 御林軍.....311
 牛桌下書.....264
 牛頭山.....264

H

八大錘.....265
 八義圖.....79
 八寶箱.....298
 八郎探母.....239
 敗陣斬泉.....159
 排王讚.....303
 敗子回頭.....372
 背 棧.....387
 背娃入府.....375
 八戒降妖.....187
 八虎闖幽州.....233
 破洪州.....236
 白馬坡.....121
 白傅遺姬.....221
 伯牙摔琴.....78
 白蛇傳.....248

白門樓.....119
 白良關.....179
 白綾記.....273
 白涼樓.....284
 白水灘.....385
 白雲洞.....187
 破滬池.....73
 販馬記.....374
 反延安.....240
 焚烟墩.....75
 樊江關.....189
 反冀州.....70
 反覆小人.....296
 焚椒記.....226
 霸王別姬.....95
 八百八年.....73
 巴路和.....201
 虹蜃廟.....330
 八仙飄海.....75
 碰 碑.....233
 平貴別窖.....180
 平貴從軍.....180
 碧玉簪.....409
 碧塵帕.....80
 碧洋湖.....273
 碧游宮.....75
 劈山救母.....377
 變羊計.....403
 飛虎山.....224
 貧鐵劍.....402
 飛龍傳.....227
 飛叉陣.....100
 皮匠殺妻.....384
 訪傘一枝桃.....332
 鳳儀亭.....113
 寶玉出家.....342
 跑 坡.....183

褒 姒.....76
 法場換子.....189
 北極觀.....338
 彭公案.....324
 北霸天.....338
 北宋楊家將.....231
 鳳鳴關.....153
 法門寺.....308
 報恩記.....221
 鳳凰嶺.....269
 鳳凰山.....182
 寶蓮燈.....377
 寶川出府.....180
 寶蟾送酒.....341
 榔子上殿.....102
 封神演義.....70
 崩徹裝瘋.....96
 鳳陽花鼓.....400
 百花亭.....202
 百壽圖.....140
 百草山.....367

I

一門忠烈.....263,301
 威鎮草橋.....101
 一縷麻.....369
 一兩七.....283
 一夜白鬚.....81
 一家團聚.....297
 一氣周瑜.....131
 因果報.....225
 殷家堡.....331
 陰陽報.....355
 陰陽河.....395
 一疋布.....390
 一棒雪.....295
 一箭仇.....255

文王訪賢	73
文昭關	81
開樞閣府打棍出箱	244
武松打虎	252
武昭關	81
武松殺嫂	253
佛門點元	380
白虎堂	235
廟會	291

C

智氣周瑜	134
竹中藏令	128
鎮瀆州	265
陳圓圓	304
沈香床	372
珍珠衫	408
陳宮計	111
陳七奶	358
沈小霞	317
沈雲英	317
關山	219
智取北湖州	284
池水驛	392
弔琵琶	162
趙顏借壽	140
張義得寶	371
趙五娘	104
長坂坡	127
朝歌恨	72
趙家樓	269
挑滑車	264
頂花磚	396
釣金龜	371
張金定弔孝	175
張古董借妻	390
張良辭朝	95

長生殿	202
長生樂	166
趙子龍招親	131
張松獻地圖	135
趙州橋	243
長亭會	81
丑表功	399
忠孝圖	375
忠孝碑	106
忠孝全	306
中牟縣	111
冲霄樓	248

D

打姪上坟	377
打雁進窩	184
打嚴嵩	295
打魚殺家	260
打魚藏舟	312
大劈棺	89
大保國	309
大報仇	149
大顯院	257
第一忠臣	167
大香山	367
大鍋紅	368
大名府	256
大鬧忠義堂	258
大登殿	185
打瓜園	228
打花鼓	400
拿郝文爵	330
打韓昌	237
拿花得雨	338
打金枝	203
打虎	252
打鼓罵曹	120

打棍出箱	244
打棧子	397
拿高登	276
打虎斬蛟	164
打麵缸	393
葭葫關	138
斷橋	249
斷密澗	172
斷太后	243
拿王飛天	253
拿王莽	100
打櫻桃	390
打鑿窟	242
打龍棚	229
打龍袍	243
打沙鍋	386
拿捉史文恭	255
打刀	228
打桃園	229
打登州	171
打寶瑞	230
奪小沛	116
泥馬渡康王	263
田氏劈棺	89
田單救主	88
度白儉	92
童女斬蛇	368
獨虎營	331
獨木關	182
獨占花魁	270
銅網陣	248
堂樓詳夢	361
道州城	317
怒斬于神仙	124

E

英傑烈	389
-----	-----

英烈全傳	283
英雄會	325
英雄血淚圖	250
英雄義	255
延安關	240
演火棍	237
煙花鏡	216
烟鬼嘆	397
轅門射戟	116
轅門斬子	235
胭脂計	158
燕青打擂	258
胭脂列	347
胭脂虎	219
胭脂褶	305
艷陽樓	276
關瑞生	358
悅來店	348

F

風波亭	266
風塵三俠	203
富貴圖	391
扶琴訪友	78
扶琴退兵	155
瑯球山	326
汾河灣	184
粉宮樓	166
風流棒	320
富春樓	395
風箏誤	359
瘋僧掃秦	267
弗天亮	279
風雲會	232
芙蓉屏	281
芙蓉謀	341

A

惡虎庄……………102
 惡虎村……………328
 安五路……………152
 安天會……………185

B

罵安……………177
 馬鞍山……………78
 馬跳檀溪……………125
 罵殿……………232
 馬接歸漢……………100
 罵閻羅……………267
 馬義救主……………279
 馬芳困城……………311
 賣馬……………170
 賣胭脂……………388
 賣符符……………398
 賣符捉妖……………367
 賣絨花……………392
 梅降雪……………385
 梅杏聯芳……………213
 賣弓計……………181
 梅龍鎮……………307
 賣身投靠……………360
 煤山恨……………303
 馬上緣……………188
 馬嵬坡……………177
 麥城昇天……………144
 博浪錘……………94
 莫成替主……………295
 盤腸大戰……………179
 萬花船……………406
 盤河戰……………112
 萬里尋夫……………92
 盤山……………220

罵王朗……………154
 馬思遠……………354
 芭蕉扇……………187
 罵曹……………120
 馬蹄金……………90
 馬騰托兆……………137
 伐子都……………77
 伐東吳……………149
 罵楊廣……………167
 馬前撥水……………103
 別宮……………150
 汴梁圖……………226
 別妻……………390
 別母亂箭……………301
 別母刺背……………268
 美人計……………133
 未央宮……………96
 郟鄏縣……………308
 琵琶記……………104
 臺中生太子……………225
 棒打薄情郎……………271
 望兒樓……………217
 母女會……………181
 穆柯寨……………235
 穆柯寨燒山……………235
 牧虎關……………239
 望江居……………332
 濮陽城……………114
 牧羊卷……………370
 紡棉花……………398
 梵王宮……………285
 牡丹亭……………272
 武文華……………324
 武家坡……………183
 文姬歸漢……………162
 文君當鋪……………107
 文明人……………400

附 録 劇 名 索 引

本書に現はれた劇名、及び藍本名のABC順に依る索引である。
読者は所要の脚本名を羅馬字化して檢索されたい。別名をも擧げて
ある。例へば「貴妃醉酒」劇は「K」の部に、その別名「百花亭」
は「H」の部に發見することが出来る。

昭和十五年十月十五日印刷
昭和十五年十月二十日發行

支那劇大觀
定價四圓八十錢

著者 波多野乾一

發行者 岩野眞雄
東京市芝公園七號地一〇

印刷所 堀内印刷所
印刷者 堀内文治郎
東京市神田區三崎町二ノ二三

東京市芝公園七號地十番

發行所 大東出版社

振替東京一九四七一番
電話芝(4)三九四四番

221

支那文化史大系

各判各三三五〇頁平均
各册三圓十二錢

宋文炳著 小口五郎譯 支那民族史	楊幼炯著 村田孜郎譯 支那政治思想史	馬乘風著 田中 齊譯 支那經濟史	曾仰豐著 吉村 正譯 支那塩政史	玉孝通著 關未代策譯 支那商業史	鄭肇經著 田邊 泰譯 支那水利史
馮承鈞著 井東 憲譯 支那南洋交通史	陳邦賢著 山本成之助譯 支那醫學史	蔡元培著 中島太郎譯 支那倫理學史	陳願遠著 藤澤衛彥譯 支那婚姻史	陳東原著 村田孜郎譯 支那女性生活史	姚名達著 實藤惠秀譯 支那目錄學史

東京芝地公一〇大東出版社 振替東京一四九七一 電話芝三九四四

772.2
H42

772.2
H42

終